



イーファス体験版 利用マニュアル

Ver. 15.3



目次

利用マニュアルの使い方とサポート連絡先	8
[サポート事務局 連絡先]	9
【1】 イーファスの利用準備	10
【1】 -(1) ログイン情報の管理	10
【1】 -(1)-①. ログイン情報について	10
<ログインする前にお読みください>	10
<ログインに関する注意事項>	10
<通常ログイン情報と緊急時用ログイン情報>	11
【1】 -(1)-②. ログイン方法	12
<1. ブラウザにログイン画面を登録する>	12
<2. ID とパスワードを記憶させて、毎回の入力を簡略化する>	13
<iPad 本体の操作に関するアップル サポート窓口>	14
【1】 -(1)-③. メイン画面の「再ログイン」ボタンの使い方	15
【1】 -(2) システム初期設定内容の確認	15
【1】 -(2)-①. 所存院・施術者管理 の設定確認	15
【1】 -(2)-②. 施術者マスタ 肢位種別の設定確認	15
【1】 -(2)-③. 情報メニュー管理 「署名」の設定確認	15
【1】 -(2)-④. からだセイバー（アプリ）の活用方法	15
<アプリ治療院番号について>	16
<アプリチラシの印刷と配布方法>	16
【1】 -(2)-⑤. イーファス画像の利用	16
【1】 -(3) 姿勢撮影の準備	17
【1】 -(4) イーファス施術で使用する備品	17
【2】 運用準備（患者様に使用する前の準備）	18
【2】 -(1) イーファスの活用方法	18
【2】 -(1)-①. イーファス施術の特徴	18
【2】 -(1)-②. イーファスの施術支援機能	19
【2】 -(1)-③. 症状における各施術法の選択方法	20
【2】 -(1)-④. 症状による施術の組み立て方	21
【2】 -(1)-⑤. 導入初期にお勧めのイーファス施術	21
【2】 -(1)-⑥. 姿勢分析機能の操作練習	23
▪ チャート：②. 練習用－サンプル画像を使用した合成比較の iPad 操作	23
【2】 -(2) イーファスの提案方法	23
【2】 -(2)-①. イーファス施術におけるトーク例	24

【2】-(2)-②. 提案や説明の直前に行う連動チェック（小指、手首、距骨チェック）	24
【2】-(2)-③. イーファス導入時の既存患者様への提案方法	25
【2】-(3) 施術メニュー作成される際の参考資料	25
〈私が保険治療から自費治療に移行したときの経験〉	26
【2】-(4) キャンペーン実施される際の参考資料	26
【2】-(5) カウンセリング機能の活用（説明画像の紹介機能）	27
〈カウンセリング用 患者説明資料サンプル〉	30
【2】-(6) イーファスポスターの活用	30
【2】-(7) 配信メールの登録と配信設定方法	31
【2】-(7)-①. 配信メールの事前登録方法	31
【2】-(7)-②. 登録した配信メールの配信設定方法	31
【2】-(7)-③. メッセージ 作成例	32
【2】-(7)-④. ステップメールの設定方法	32
【3】 利用開始（イーファスの操作）	32
【3】-(1) 操作フローチャートの構成	32
【3】-(1)-①. フローチャートの使い方	33
【3】-(1)-②. フローチャート 一覧表	33
【3】-(2) 【基本操作 : operation kind】	35
【3】-(2)-1: 患者登録と患者検索方法	35
▪ チャート : ⑱. 患者 ID 入力画面の患者登録や検索方法 : 詳細版	35
▪ チャート : ⑲. 患者マスタ画面の患者登録や検索方法 : 詳細版	35
【3】-(2)-2: 既に終了した来院情報（施術情報）を確認・編集する方法	35
▪ チャート : ⑳. 過去の施術情報画面の操作フローチャート : 詳細版	35
【3】-(2)-3: 施術日登録機能について	35
▪ チャート : ㉑. 施術日登録機能の操作 : 詳細版	35
【3】-(3) 【検査操作 : operation kind】	36
▪ チャート : ①. 【初検用】 検査フローチャート（姿勢分析なし） : 詳細版	36
▪ チャート : ②. 【初検用】 検査フローチャート（姿勢分析あり） : 詳細版	36
▪ チャート : ③. 【再来用】 検査フローチャート（姿勢分析なし） : 詳細版	36
▪ チャート : ④. 【再来用】 検査フローチャート（姿勢分析あり） : 詳細版	36
▪ チャート : ⑤. 【初検用】 検査フローチャート（姿勢撮影専用端末の操作） 詳細版	36
▪ チャート : ⑥. 【再来用】 検査フローチャート（姿勢撮影専用端末の操作） 詳細版	36
[検査チャートに関連する詳細説明]	37
【3】-(3)-1: イーファス施術の概要と施術画面の選出	37
【3】-(3)-1:-①. イーファス施術の概要 — E.F.A.S 施術は全身調整 —	37
【3】-(3)-1:-②. 対象筋選出理論（BT 療法 : Balance of Tendency）	38
【3】-(3)-1:-③. イーファスの分析力	39
【3】-(3)-1:-④. 「施術力を高める秘訣」	39

【3】 - (3)-2: 動作検査の種類	40
【3】 - (3)-2:-①. 運動機能検査 → 「全身動作による分析」	40
▪ チャート : ②⑥. 検査フローチャート (運動機能検査) 詳細版	40
【3】 - (3)-2:-②. 関節運動検査 → 「局所動作からの分析」	41
▪ チャート : ②⑦. 検査フローチャート (関節運動検査 名称選択式) 詳細版	41
〈検査を行う関節と痛みの種類 (伸収・短収) の入力方法〉	42
〈痛みの種類の判別方法 (伸収 or 短収)〉	42
〈短縮性収縮痛とインピンジメントの見分け方〉	43
【3】 - (3)-2:-③. 姿勢検査 → 座位のバランス検査	44
【3】 - (3)-2:-④. キーワード入力	44
【3】 - (3)-2:-⑤. 動作検査を実施するときのポイント (全検査共通)	44
【3】 - (3)-3: 施術目的の選択	46
【3】 - (3)-3:-①. 施術目的の選択方法	46
【3】 - (3)-3:-②. 「+安定」の有無による選出ロジックの違い	46
【3】 - (3)-3:-③. 症状による施術目的の選択基準	47
〈施術目的ボタンの選択基準表〉	48
〈迷われる時のアドバイス〉	49
【3】 - (3)-4: 骨盤検査	50
▪ チャート : ②⑧. 検査フローチャート (骨盤検査 / リバース・ダイレクト兼用)	50
【3】 - (3)-4:-①. 骨盤検査の流れ	50
【3】 - (3)-4:-②. 骨盤検査を行う手法	50
【3】 - (3)-4:-③. 検査手法の違いにおける目的変更ボタンの選択方法	51
【3】 - (3)-4:-④. アクチベータによる骨盤検査の参考動画	51
【3】 - (3)-4:-⑤. 骨盤ケア画面で行う骨盤検査の方法	52
【3】 - (3)-5: 対象筋表示画面の見方と選出ロジックの調整機能	56
【3】 - (3)-5:-①. 施術優先順位の見方	56
【3】 - (3)-5:-②. 人体図に白色マーカで表示する対象筋	57
【3】 - (3)-5:-③. 選択検査機能	58
【3】 - (3)-5:-④. 選出される対象筋の絞込み機能	59
【3】 - (3)-5:-⑤. 肢位表示機能	60
【3】 - (3)-5:-⑥. モード選択機能	61
【3】 - (3)-5:-⑦. 画面 SS と調整図印字機能	61
【3】 - (3)-5:-⑧. 調整図印字機能 (オンライン施術用)	62
【3】 - (3)-5:-⑨. 2次選出と急性変換機能	62
【3】 - (3)-5:-⑩. サブ機能画面 (現在の症状メニュー画面)	63
【3】 - (3)-5:-⑪. 施術計画 の入力方法	64
【3】 - (3)-5:-⑫. 症状一覧 の入力方法	65
【3】 - (3)-6: 姿勢分析機能の活用目的	66

【3】 - (3)-6:-①. 姿勢評価の方法	67
【3】 - (3)-6:-②. 姿勢分析を実施するタイミング	67
【3】 - (3)-6:-③. 姿勢評価前後に定期的な姿勢管理の重要性を伝えるテクニック	68
【3】 - (3)-6:-④. 姿勢撮影 シャッターをきるタイミング	68
【3】 - (3)-6:-⑤. 撮影と評価で使うフローチャートの選び方	69
【3】 - (3)-6:-⑥. 合成比較の画面収録と収録動画の配布方法	70
【3】 - (3)-6:-⑦. 動画を送る時に添付する画像	70
【3】 - (3)-6:-⑧. 過去に保存した画像の検索方法	70
■ チャート : ⑭. 保存画像の検索方法と検索エリアのボタンの操作	70
【3】 - (3)-6:-⑨. 画像保存画面の各ボタン機能	71
【3】 - (3)-6:-⑩. 保存画像を削除して、保存可能枚数に余裕を作る方法	73
【3】 - (3)-6:-⑪. 患者一覧 CSV 機能の使い方 (画像最終保存日を基準とした患者様検索)	73
【3】 - (3)-6:-⑫. 姿勢を綺麗に整えるポイント	73
【3】 - (4) 【施術操作 : operation kind】	74
■ チャート : ⑦. 施術フローチャート (骨格調整、距骨テープ) : 詳細版	74
■ チャート : ⑧. 施術フローチャート (緊張緩和 <FA-3> + 骨格調整) : 詳細版	74
■ チャート : ⑨. 施術フローチャート (緊張緩和 <FA-3> + 骨格調整 + 筋肉調整) : 詳細版	74
■ チャート : ⑩. 施術フローチャート (テープ施術) : 詳細版	74
■ チャート : ⑪. 施術フローチャート (ストレッチ施術) : 詳細版	74
■ チャート : ⑫. 施術フローチャート (簡単合成比較から比較画面収録) : 詳細版	74
■ チャート : ⑬. 施術フローチャート (姿勢画像の並列比較) : 詳細版	75
[施術チャートに関連する詳細説明]	75
【3】 - (4)-1: 緊張緩和 (FA-3) 施術の詳細 ※自律神経調整	75
【3】 - (4)-1:-①. 新規導入時の説明動画	76
【3】 - (4)-1:-②. 膝倒しの結果に対する緊張緩和の施療部位	76
【3】 - (4)-1:-③. 緊張緩和を公開した時の講義資料	76
【3】 - (4)-1:-④. 緊張緩和の練習風景	77
【3】 - (4)-2: 骨格調整施術の詳細	78
【3】 - (4)-2:-①. アクチベータによるリバーズ施術	80
〈調整方法 : 調整肢位、調整イメージ、タイミングと方法〉	80
〈矢印方向による運動面作用〉	81
【3】 - (4)-2:-②. ドロップによるダイレクト施術	82
〈ホータブルドロップ D の紹介〉	82
〈ポータブル D の調整方法〉	83
〈矢印方向による運動面作用〉	84
【3】 - (4)-2:-③. 徒手によるダイレクト施術	84
〈矢印方向による運動面作用〉	85
【3】 - (4)-2:-④. 三角ブロックによる施術	85

〈三角ブロック矯正の注意点〉	85
〈施術の仕上げとしてブロックをする方法〉	85
〈三角ブロックの紹介〉	85
【3】 - (4) - 2 - ⑤. 伸縮テープによる施術：距骨テープ（骨格調整テープ）	86
〈伸縮テープの貼り方〉	86
〈テープの貼っておく時間〉	86
〈第1テープ：リバース画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）	87
〈第2テープ：リバース画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）	87
〈第3テープ：リバース画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）	87
〈効果が少ない時の対応〉 二重貼り	88
【3】 - (4) - 2 - ⑥. 骨盤ケアの操作フローチャート（患者様に指導する流れ）	89
【3】 - (4) - 2 - ⑦. 骨格調整による姿勢分析の施術参考資料（R）	91
【3】 - (4) - 3: 対象筋調整施術の詳細	92
【3】 - (4) - 3 - ①. 選出筋へのFA検査（First Aid）	92
【3】 - (4) - 3 - ②. 前腕部と下腿部のグーパーテスト	93
【3】 - (4) - 3 - ③. 体幹の安定性を高める筋肉と運動療法	93
【3】 - (4) - 4: テープ施術の詳細：アスリート画面・テーピング選出	95
【3】 - (4) - 4 - ①. テープ施術の目的と注意事項	95
【3】 - (4) - 4 - ②. 選出されなかったテーピング画像を、画像一覧から任意で追加する方法	96
【3】 - (4) - 5: ストレッチ施術の詳細：アスリート画面・ストレッチ選出	97
【3】 - (4) - 5 - ①. ストレッチの目的と注意事項	97
【3】 - (4) - 5 - ②. 選出されなかったストレッチ画像を、画像一覧から任意で追加する方法	97
【3】 - (4) - 6: FA検査のまとめ（Fast Aid：手当て）	98
【3】 - (4) - 6 - ①. FA検査を上達させる秘訣	98
【3】 - (4) - 6 - ②. 各施術方法におけるFA検査の方法	99
【3】 - (5) 【配信操作：operation kind】	100
▪ チャート：⑭. 配信フローチャート（セルフケア配信設定）：詳細版	100
▪ チャート：⑮. 配信フローチャート（セルフケア/オリジナル資料登録）：詳細版	100
▪ チャート：⑯. 配信フローチャート（合成比較収録動画の配信）：詳細版	100
▪ チャート：⑰. 配信フローチャート（ストレッチ画像配信）：詳細版	100
[配信チャートに関連する詳細説明]	101
【3】 - (5) - 1: セルフケア資料の配信機能	101
【3】 - (5) - 1 - ①. セルフケア資料配信機能の紹介動画	101
【3】 - (5) - 1 - ②. 主な機能	102
【3】 - (5) - 2: セルフケア資料配信機能の活用方法	103
【3】 - (5) - 2 - ①. お勧めの提案方法	104
【3】 - (5) - 2 - ②. 説明時のトークポイント	107
【3】 - (5) - 2 - ③. セルフケア資料配信機能への期待	108

【3】-(5)-3: 配信資料の設定・確認・編集する方法	109
【3】-(5)-3:-①. セルフケア資料配信の準備方法	109
【3】-(5)-3:-②. 新たに配信設定を登録する方法（視聴 URL の作成）	110
【3】-(5)-3:-③. 先生のオリジナル資料の登録と配信方法	112
【3】-(5)-3:-④. セルフケア用オリジナル資料を作成するときの参考資料	113
【3】-(5)-3:-⑤. 配信済のセルフケア視聴画面の管理機能	114
〈配信済の内容確認・編集・一覧・宛名印字する方法〉	114
▪ チャート：⑳. 基本フローチャート（セルフケア視聴画面の閲覧と編集操作）	114
〈検索した配信先へ一斉メール配信を行う方法〉	115
〈セルフケア配信先への新規メールの作成方法〉	115
〈セルフケア配信先へのメール自動配信を設定する方法〉	116
▪ チャート：㉑. 基本フローチャート（セルフケア配信先への自動メール配信）	116
【3】-(5)-3:-⑥. イーファス公式 ADL 資料の確認	117
【4】保存した過去の来院情報（施術情報）の閲覧と編集方法	118
【4】-(1) 過去の来院情報の閲覧と編集方法	118
▪ チャート：㉒. 基本フローチャート：過去の来院情報画面の操作	118
【4】-(2) 経過観察の方法	119
【4】-(2)-1: 経過良好な時の判断	119
〈経過が良い時ほど気を付けるポイント〉.....	119
【4】-(2)-2: 経過不良な時の判断	120
【4】-(2)-2:-①. 前回と異なる動きにくさを評価したときの判断	120
【4】-(2)-2:-②. 前回と検証動作が全く同じときの判断	120
【4】-(2)-2:-③. 帰宅後 2 日以内に症状が逆に悪くなっていたときの判断	120
【4】-(2)-2:-④. 症状の変化がね良くも悪くも全く見られないときの判断	121
【4】-(2)-3: 症状が改善してからの健康管理の施術	122
【4】-(2)-3:-①. 疲労を回復させる施術目的	122
【4】-(2)-3:-②. パフォーマンスをアップさせる施術目的	122
【5】参考施術動画 一覧	123
【6】付録：appendix	124
【6】-①. システム画面の構成と機能の概要	124
【6】-②. イーファス 利用プラン別 利用可能な機能の一覧	126

利用マニュアルの使い方とサポート連絡先

本紙は、E.F.A.S（イーファス）の 操作方法・活用方法 について、利用目的ごとに説明しています。よく使用するフローチャートは印刷してご使用ください。

なお補助資料を参照される場合は、その説明順に読み進めてください。

補助資料は、効率よく体験していただくための資料です。

本マニュアルはインターネットがつながっているパソコンや iPad でご覧いただくと、リンクをクリックして資料をご覧いただけます。

なお、施術版の全機能を説明していますので、導入プランによっては利用できない機能の内容も含まれますが予めご了承ください。

おおまかな説明の流れは以下の通りですので、順番にご覧いただければ、イーファスを全体的に理解していただけると思います。

項目	説明内容
利用マニュアルの使い方	
【1】利用準備	iPad やパソコンへのログインやシステム初期設定と姿勢撮影の準備などを説明しています
【2】運用準備（患者様に使用する前の準備）	患者様へ運用する前の準備として活用方法や提案方法などを説明しています

	【3】 イーファスの操作（利用開始） <ul style="list-style-type: none"> ▪ 基本チャート：患者登録方法など ▪ 検査チャート：動作検査から施術画面を表示するまでの操作 ▪ 施術チャート：各施術方法による施術画面の操作 ▪ 配信チャート：セルフケア資料の配信方法などを説明 	操作方法はフローチャートを用意していますので、フローチャートに関連した詳細を説明
	【4】 再来施術の操作 ：再来施術に関する操作	再来時の操作と経過観察の説明
	【5】 施術動画を紹介 しています	施術の参考動画一覧

イーファスの操作を全体的に理解していただきましたら、使い慣れるほど施術効果を高めていただけますので、ぜひ積極的にご利用ください。

ご質問はサポート事務局までお気軽にお問い合わせください。

[サポート事務局 連絡先]

CIM 有限会社 イーファス サポート事務局 担当：松村 TEL：090-5885-3473

メール：support@efas.jp

[目次に戻る](#)

【1】 イーファスの利用準備

【1】 -(1) ログイン情報の管理

【1】 -(1)-①. ログイン情報について

事務局よりメールでお届けしたログイン情報は大切に保存してください。
またイーファスを利用する別端末には、メールを転送してご利用ください。

〈ログインする前にお読みください〉

ログインする端末で、インターネットにつながっていることを確認の上、
メールのログイン URL をクリックするとログイン画面が開きます。

↓

パソコンでログインされる際のブラウザは、**Google Chrome** をご利用ください。

また iPad や iPhone で利用するときは、**Safari** からログインしてください。

※他のブラウザからログインされると一部の機能が正常に機能しない場合があります。

利用するタブレットは iPad（第 6 世代）以降のシリーズを推奨しています。

それ以前の iPad（第 4 世代より前）の場合、一部機能が使えない場合があります。

古いシリーズほど姿勢を撮影するときの iPad と被写体との撮影距離が必要になったり、画像をシステムにアップロードする際に時間がかかってしまったりします。

〈ログインに関する注意事項〉

1. 同じ ID とパスワードを使って、同時に複数の端末から利用することはできません。

1 台目にログインしている状態で、別の端末からログインしようとする、1 台目のログイン状態が強制解除されます。

2. ID は施術用 ID（代表 ID）を 1 つと受付用 ID を 2 つ発行します。※体験版の受付 ID は 1 つです。

施術 ID（代表 ID）は、すべての機能が利用できるのもので通常は施術用の iPad で使用します。

受付 ID でログインすると、次の表のように、患者様管理・カウンセリング・セルフケアのみ利用でき、患者マスタの登録やセルフケア配信の設定、姿勢画像の撮影・保存・比較説明に使用しますので、

1 つ目の受付 ID は、通常はパソコンで使用し、2 つ目の受付 ID は、施術用とは別に姿勢撮影・保存専用の iPad や iPhone をご準備されたときに、その端末用の ID として使用してください。

発行している ID は、それぞれ異なる端末から同時に利用できます。

各 ID で利用可能な機能について 利用プラン： W 版								
メイン画面	所属院管理	情報管理	症状管理	動作検査	患者様管理	カウンセリング	セルフケア管理	モバイル管理
代表 ID	○	○	○	○	○	○	○	△
受付 ID	-	-	-	-	○	○	○	△
追加施術 ID	-	-	○	○	○	○	○	△

〈通常ログイン情報と緊急時用ログイン情報〉

イーファスのシステムは、NTT のサーバーで厳重に管理しておりますが、不測の通信障害が発生した時の対策として、緊急時用のイーファス環境を別サーバーに準備しております。

通信障害が復旧するまでの間に利用していただくイーファス環境になりますので、事務局からご案内する緊急時用ログイン情報も大切に保管しておいてください。 ※導入時に発行します。

■ 緊急時用イーファス環境利用時の注意事項 ■

■ 緊急用環境は [W 版] となります

①姿勢分析・セルフケア配信機能を利用される場合

患者様特定の上利用できる機能ですので、症状管理画面から始め、まず新規患者登録をしてください。

※緊急用環境で保存した来院情報や姿勢画像データは、障害の復旧後に普段利用されている環境へ移行させることはできませんのでご注意ください。

※新規患者登録の際の患者 ID は自動採番となりますので、普段のイーファスで登録した患者 ID では登録できません。(緊急時用環境の一時的な番号として使用してください)

②姿勢分析・セルフケア配信機能を利用しない場合

患者様を特定する必要がないので、メイン画面の [動作検査] ボタンから施術を始めてください。

※ [動作検査] から始めた施術は来院情報を保存しませんのでご注意ください。

■ 症状管理から新規患者登録の操作

1. [新規ボタン] をクリック
2. 患者氏名とフリガナを入力
3. [登録] をクリック
※ 2 回目以降は患者 ID 検索して始めます
4. [採番] をクリック

▪ 姿勢画像保存・比較について

姿勢画像の保存や比較をしていただけますが、従来利用のイーファスへ画像保存されません。

従来のイーファス環境へ同じ姿勢画像を保存される場合は、障害が復旧した後に、改めて患者様管理から患者様を呼び出して、iPad のギャラリーに保存されている画像を保存していただくことになります。撮影日が保存日になる仕様ですので、保存し直した際は、画像一覧のコメント欄に本当の撮影日を記入しておいてください。

【1】 -(1)-②. ログイン方法

▪ PDF : [ログインマニュアル \(1.0\)](#)

2つの作業を行っていただきます。

(1) ブラウザにログイン画面を登録して、次回以降ログイン画面を開きやすくします

- ➔ iPad のホーム画面にアイコンを表示させる
- ➔ パソコンは、ブックマークする

↓

(2) ID とパスワードを記憶させて、毎回の入力を省略させる

- ➔ iPad は、自動保存機能を使用する
- ➔ パソコンは、初回ログイン後に記憶（保存）を促すメッセージに従う

〈1.ブラウザにログイン画面を登録する〉

(iPad の場合) iPad でログイン画面をホーム画面に登録する



1. メールのログイン URL をクリックしてログイン画面を開く。

↓

2. 画面右上のマークをタップする。

↓



↓



3. 「ホーム画面に追加」をタップする。



4. 表示名を確認して、「追加」をタップすれば、ホーム画面にアイコンが表示されます。

※名称を変更するときは変更してからタップする。

以上

(パソコンの場合) Chrome でブックマークする

1. メールのログイン URL をクリックしてログイン画面を開く。
↓
2. 検索バーの右端の☆マークをクリックし、フォルダを指定する
私はブックマークバーに保存しています。

※Chrome でブックマークを作成、表示、編集する方法は[こちらをクリック](#)してサイトを参考にしてください。

※毎日深夜に、サーバーにおいてシステムデータのバックアップを行っているため、毎日の使い始めにはログイン画面からし始めてください。

〈2. ID とパスワードを記憶させて、毎回の入力を簡略化する〉

パソコンは、初回ログイン後に記憶（保存）を促すメッセージに従って保存してください。次回以降ログイン画面を開いたら、ID とパスワードが自動入力されます。

iPad の場合は、まずパスワードの自動保存が「ON」になっていることを確認してください。



(iPad に ID とパスワードを自動保存する準備)

ログインする前に自動保存の設定がオンになっているかを以下の手順で確認してください。



①ホーム画面の設定（ギアマーク）をタップして、画面左側の「パスワード」をタップしてください。



②右側の「パスワードを自動入力」をタップします。



③「パスワード自動入力」をオンにしてください。

※上記の設定を必ずログインの前に確認してください。

〈ID とパスワードの記憶方法〉

ログイン画面を開き、初めて ID とパスワードを入力して、「ログイン」をタップすると、ID とパスワードを保存するかどうかを尋ねるポップメッセージが表示されます。



「保存する」をタップすると保存され、次回からログイン画面を開き、入力欄をタップすると ID とパスワードが自動的に入力されます。



〈iPad 本体の操作に関するアップル サポート窓口〉

アップルケアサポート電話番号： 0120-277-535（月～金：9:00～19:00 土日祝：9:00～17:00）

万一、本体に不具合がありましたら、アップルサポートへお問い合わせください。

[目次に戻る](#)

【1】-(1)-③. メイン画面の「再ログイン」ボタンの使い方

「再ログイン」ボタンは、をクリックすると一旦ログアウトして再度ログインする操作を自動で行います。イーファスを利用している途中で、画面の移動が遅くなったりした時は、メイン画面に戻り再ログインボタンをタップして、再度ログインしなおすと改善することがあります。

また、バックグラウンドで複数のページを多く開いている場合も、動作が遅くなりやすいのでご注意ください。

導入後にシステムの初期設定を確認してもらいます。

詳しくは導入時に説明させていただきます。

【1】-(2) システム初期設定内容の確認

【1】-(2)-①. 所存院・施術者管理 の設定確認

【1】-(2)-②. 施術者マスタ 肢位種別の設定確認

【1】-(2)-③. 情報メニュー管理 「署名」の設定確認

[目次に戻る](#)

【1】-(2)-④. からだセイバー（アプリ）の活用方法

イーファスストレッチ簡易版アプリで、患者様の周りの方を囲い込む目的で開発したアプリです。

既存患者様には、ご家族や知人の方へお勧めしていただくようお伝えしています。

アプリのストレッチ選出は、簡易的なロジックになりますので、来院患者様にはイーファスで選出するストレッチを行ってください。 ※分析力の差：約 1000 倍

からだセイバーのホームページ

: <https://karada-savior.com/>

アプリは無料 download ができます。



アプリをダウンロードして、治療院検索画面の治療院情報を確認してください。

「導入申込フォーム」から申し込んでいただいた治療院情報を設定していますが、内容変更を希望される時はサポート事務局までご連絡ください。

〈アプリ治療院番号について〉

アプリの中で自院を利用院として登録してもらうために割り振られた各治療院様の専用番号です。
ログイン情報を通知するときに一緒にお知らせしています。

↓

アプリをダウンロードされた方には、初期設定画面で治療院番号の入力を求める仕様になっており、番号を入力された場合、治療院検索画面のトップに「利用院」として自院の情報が表示されます。

※利用院は利用後に変更・設定することもできます。

〈アプリチラシの印刷と配布方法〉

来院患者様に配布して、ご家族や知人の方に渡していただくチラシです。

→ 「自分でカラダを検査して、自分に合ったストレッチを選べる無料アプリがあるよ!」

→ 「症状があるときは、治療院でより正確に検査してもらえよ!」

チラシは**サポート画面から印刷**していただけますので、配布されるときは、チラシ裏面に**アプリ治療院番号を記入**してから配布してください。

PDF: [A6 アプリチラシ \[からだセイバー\] \(第1版\)](#)

【1】-(2)-⑤. イーファス画像の利用

メイン画面の下 [サポート] ボタンをクリックするとサポート画面が開きます。

各種書類「1.事務関係書類」の [画像資料] は、イーファスに関する資料を自作される時に自由に使用してください。

[目次に戻る](#)

【1】-(3) 姿勢撮影の準備

姿勢撮影キットが届きましたら、下記「姿勢撮影の準備と撮影方法（8.2）」を参照して立ち位置マットと三脚シートを設置してください。

撮影の際の立ち位置マットと三脚シートを**設置する必要なスペース**は、iPadのシリーズにもよりますが、約1m×2mのスペースが必要です。半数以上の治療院様は、治療室内の通路などにマットやシートを設置しておいて、撮影する時だけ三脚を立てて撮影されています。

PDF：[姿勢撮影の準備と撮影方法](#)（8.2）

動画：[シートの設置シーン](#)（3:42）

動画：[姿勢撮影シーン](#)（0:39）



【1】-(4) イーファス施術で使用する備品

施術に必要な備品やあると便利な備品をご案内いたします。

PDF：[イーファス施術で使用する器具備品](#)（10.2）

[目次に戻る](#)

【2】運用準備（患者様に使用する前の準備）

【2】-(1) イーファスの活用方法

イーファスを活用した施術は、一般的なリラクゼーションとの違いを印象付けやすく、従来の施術に組み合わせると、先生の独自性や専門性を高め、自費治療の価値を高められますので、イーファス施術の特徴は患者様に伝えるようにしてください。

【2】-(1)-①. イーファス施術の特徴

1. 独自の動作検査

- ・一人一人の体の動きを検査・分析して行うオーダーメイドな施術である
- ・エキスパート型 AI による動作分析で施術対象部位を特定している（1/194 万の分析）

2. 施術の視覚化

- ・施術方法を視覚的に画面表示（対象筋・骨盤脊柱矯正・テープ施術など）し、施術画面を見ていただきながら説明できます。

施術中に各施術画面を見せながら説明することはとても重要です。

「検査の重要性」や「しっかりした施術を受けている」という印象を抱いていただくことで、患者様自身が感じる『施術の価値』を高めることができます。

- ・カウンセリング機能では、複数の紹介パターンを登録し、紙芝居風に先進的な説明を行います。
※紹介パターンは、イーファス公式の画像と、独自に作成された画像で作成します。

3. 姿勢画像の合成比較

- ・姿勢の before After 画像は、簡単な操作で合成比較を行えます。
合成比較ではわずかな変化も見逃すことはありません。合成比較によるリアルな姿勢の変化は、数値で評価するときよりも施術効果を実感していただだけ、姿勢管理をしなかった未来の不良姿勢もイメージしていただけます。 ※別法として before After 画像の並列比較も行えます。

4. セルフケア資料視聴画面の配信

- ・患者様ごとに、動作検査に基づいたセルフケア資料を閲覧していただく画面を配信します。
※セルフケア資料として、独自に作成された資料を閲覧していただくこともできます。

【2】-(1)-②. イーファスの施術支援機能

イーファスの施術は、動作検査に基づいた全身調整です。

従来から行われている施術に組み合わせていただくと、相乗効果が期待できますので、より根本的な施術メニューとして患者様にご提案されることをお勧めします。

例えば、

- ・「従来の施術」+「イーファスの骨格調整」
- ・「従来の施術」+「イーファスのテープ施術」
- ・「従来の施術」+「イーファスの骨格調整と姿勢分析」などです。

イーファスは、「動作検査 と 骨盤検査」を行って、各施術画面を選出しますので、患者様のお体の状態や症状に合わせて施術内容を組み立てます。

↓↓↓

	対応施術の種類	詳細
1	緊張緩和 (FA-3)	自律神経の調整
2	対象筋調整	筋・筋膜施術の対象筋を表示します
3	骨格調整 (骨盤・脊柱)	リバース施術
4		ダイレクト施術
5		三角ブロック
6		骨盤ケア
7	アスリート	ストレッチ
8		テープ
9	姿勢分析	2枚の姿勢画像を比較します
10	セルフケア配信	患者様ごとにセルフケア資料専用視聴画面を配信します

※施術法のリンクをクリックすると詳細説明箇所へ移動します。

※1.緊張緩和 (FA-3) は、イーファスの効果を高めるために行う全身的な調整です。

ほぼすべての患者様に、基本的な施術として施療します。

※2.対象筋には、徒手や電気治療などの普段されている方法で施療してください。

※3~5.骨格調整は、リバース法とダイレクト法に分けて調整方向を表示しています。

リバース画面はアクチベータや伸縮テープ（距骨テープ）で使用し、ダイレクト画面は徒手やドロップなどの調整方法で使用します。

施術方法の詳細は、[\[施術チャートに関連する詳細説明\]](#) で説明しております。

また [【5】 施術動画一覧](#) では、実際の施術シーンを紹介しています。

【2】 - (1)-③. 症状における各施術法の選択方法

急性期と慢性期の症状について、「○」のついている施術方法が有効ですので、施術を組み合わせる際の参考にしてください。

[症状程度に応じた施術の有効性]

症状	施術内容	施術間隔
急性期	○: 1.緊張緩和 ○: 3.骨盤・脊柱 ※リハース (アチ) ○: 8.アスリート・テープ ○: 鍼 (局所に単刺) △: 2.筋・筋膜 ※FA-2 で反応の良い筋肉を重点的に施術	1~2 回/週
慢性期 健康管理	○: 1.緊張緩和 ○: 3.骨盤・脊柱 ※リハース (アチ) or 4.タイル外 △: 8.アスリート・テープ △: 鍼 (局所に単刺) ○: 鍼 (対象筋に置鍼) ○: 2.筋・筋膜 ※FA-2 を行わずに全体的に施術	1~2 回/月

※[FA-2](#) とは、対象筋表示画面に選出されている筋肉の中で、より有効な筋肉を選ぶ方法です。

[目次に戻る](#)

[6:姿勢分析機能の活用目的に移動](#)

[姿勢撮影 シャッターをきるタイミングに移動](#)

[合成比較の画面収録と収録動画の配布方法](#)

[緊張緩和 \(FA-3\) 施術の詳細](#)

[緊張緩和を公開した時の講義資料](#)

[骨格調整施術の詳細に移動](#)

[三角ブロックによる施術](#)

[骨盤ケアの操作フローチャート](#)

[施術動画 一覧](#)

[セルフケア資料配信機能の活用方法](#)

[セルフケア資料配信機能への期待](#)

【2】-(1)-④. 症状による施術の組み立て方

私の症状に対する施術の組み立て方を話している動画をご案内しますので参考になれば幸いです。

動画：[「最近の症状による施術の組み立て方」](#) (3:04)

【2】-(1)-⑤. 導入初期にお勧めのイーファス施術

イーファスに使い慣れるまでは、従来から実施されている施術を行った後、最後に残存する症状にイーファスの一部施術を加える方法で利用されることをお勧めします。

慣れてこられたら、施術フローチャート「⑧: 緊張緩和+骨格調整」や「⑨: 緊張緩和+骨格調整+筋・筋膜調整」などを参考にして新しい施術メニューを作ってください。

導入初期にお勧めのイーファス施術		
No	メニュー名	詳細
1	<p>「テープ施術」(対象筋へのテープ)</p> <p>※動作痛が顕著な場合ほど効果を体感していただけます</p> <p>〈所要時間〉 約 10 分</p> <p>〈内容〉 動作検査+アスリート画面のテーピング選出図にテープを貼る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用するフローチャート <hr/> 基本フロー ①.初診・姿勢なし + 施術フロー ⑩.テープ施術 ■ ポイント <hr/> ・ 通常施術の最後に、さらに効果を高める 仕上げの施術として提案するのがお勧めです ・ 対象筋への調整として貼るテープ施術ですので、筋肉のスパズムが強い時に有効です。
2	<p>距骨テープ (骨格調整テープ)</p> <p>〈所要時間〉 約 10 分</p> <p>〈内容〉 動作検査+骨格調整リバース画面を参照してテープを貼る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用するチャート <hr/> 「骨格調整テープ (3.0)」の P.5 ■ ポイント <hr/> ・ 通常施術の最後に、さらに効果を高める 仕上げの施術として提案するのがお勧めです

		<ul style="list-style-type: none"> 骨格調整図を参照して貼るテープで、関節の強張りが強い時に有効です。
3	<p>「骨格調整」</p> <p>※骨格調整は、アクチベータとドロップの両方で施療します</p> <p>〈所要時間〉 約 15～20 分</p> <p>〈内容〉 動作検査+骨格調整+姿勢分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使用する施術フローチャート <hr/> <p>基本フロー ②.初診・姿勢あり</p> <p>+</p> <p>施術フロー ⑦.緊張緩和をしない場合 ⑧.緊張緩和も行う場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ポイント <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 他の療法と組み合わせる場合は、効果を納得していただくため、施術の始めに施療してください 初めて受けられる場合、姿勢評価と組み合わせることで効果を視覚化させることをお勧めします 症状が強い場合は、緊張緩和（FA-3）もプラスするとより効果的です
4	<p>「アスリート・ストレッチ」</p> <p>イーファスでオリジナルのストレッチ選出をして、セルフケア配信もしくは印刷する</p> <p>〈所要時間〉 約 10 分</p> <p>〈内容〉 動作検査+ストレッチ</p> <p>※ストレッチの作用として、骨格調整画面でアクチベータをして、検証動作の改善を確認してもらおうと、より積極的にストレッチしていただけます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使用する施術フローチャート <hr/> <p>基本フロー ①.初診・姿勢なし</p> <p>+</p> <p>施術フロー ⑪.ストレッチ施術</p> <p>+</p> <p>配信フロー ⑭.セルフケア配信</p> <ul style="list-style-type: none"> ポイント <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 受付や助手の方の作業として実施されても良いと思います セルフケア配信は、普段運動を行わない方には、興味や関心がないかもしれませんので、押し売りの提案にならないように気を付けてください

[目次に戻る](#)

[\(3\) 【検査操作 : operation kind】 に移動](#)

[\(5\) 【配信操作 : operation kind】](#)

[\(4\) 【施術操作 : operation kind】 に移動](#)

[伸縮テープによる施術](#)

[骨格調整による姿勢分析の参考資料 \(R\)](#)

【2】-(1)-⑥. 姿勢分析機能の操作練習

カウンセリングのサンプル画像を使って姿勢分析機能の操作を練習してください。

以下のフローチャートを参照してください。

- チャート：[④. 練習用－サンプル画像を使用した合成比較の iPad 操作](#)

〈姿勢分析機能の紹介動画〉

動画：[姿勢分析機能（撮影 → 合成比較 → モニタ → 並列比較）](#) (2:51)

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に戻る](#)

【2】-(2) イーファスの提案方法

セールスにおいて、「**売れる商品はなく。売れる売り方があるだけ**」という言葉があるように、提案方法はとても重要で、経営的には施術内容よりも大切なポイントだと思います。

なので、初診時のカウンセリングは特に重要です。

患者様の施術への取り組む姿勢に影響し、施術への取り組む姿勢は、治療力や継続率など施術全体に影響するので丁寧に行うようにしています。

**セルフケア配信機能の説明項目ですが、
提案するときの重要なポイントなので、
患者様に運用開始されるまでに必ずご一読ください。**

↓↓↓

[「セルフケア配信機能の活用方法について」](#)

- ①. お勧めの提案方法
- ②. 説明時のトークポイント
- ③. セルフケア資料配信機能への期待

【2】-(2)-①. イーファス施術におけるトーク例

患者様は、提案内容やトークからも施術の価値を感じ取られています。

感じられる施術の価値は施術全体に影響するので、提案時のトークも『施術』として取り組む大切なポイントです。

下記の資料は、骨格調整と緊張緩和施術の流れの中で行っているトークポイントを紹介していますので参考にしてください。

PDF：[「カウンセリングのポイント と 施術トーク-4.3」](#)

【2】-(2)-②. 提案や説明の直前に行う連動チェック（小指、手首、距骨チェック）

症状をヒアリングした後、最適な施術メニューを提案したり、施術内容を説明したりする直前には、その説明の準備として**簡単な体の連動チェック**を行ってください。

座位のまま行え、小指や手首への操作による頸部の動作チェックを行います。

下肢の症状の患者様には足部距骨の操作によって、頸部もしくは体幹部の動作チェックを行う場合があります。

〈小指を使った頸部の連動チェック〉

小指チェック抜粋動画（T）：[小指チェックの方法](#)（2:49）

導入後にシステムの初期設定を確認してもらいます。

詳しくは導入時に説明させていただきます。

〈手首、距骨、大腿部を使った連動チェック〉

基本動画（R）：小指チェック・距骨チェックなどの実習（10:49）

〈検査の重要性を説明するポイント〉

動作検査の目的



- ・筋骨格系における**全身のつながり** や **身体重心の不安定性の分析**
 - ・体の使い方（動かし方）による**体の使い癖を分析**する
- ※レントゲンなどの静的検査（見た目）だけでは連動性の良し悪しは判定できていません

<p>検査の結果</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・最適な施術部位と施術方法を見つけることができる ・最適なセルフケア資料を作成（特定）することができる
<p>検査で特定した 施術部位の効果</p>	<p>治癒力を最大化させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体重心の安定性が高まり、筋肉の緊張や関節のこわばりが緩和する ・筋骨格系の緊張緩和によって、自律神経が正常に働きやすくなる ・自律神経が整い、循環系（血行動態）などが改善される

【2】-(2)-③. イーファス導入時の既存患者様への提案方法

普段姿勢分析をされておられない場合は、**不良姿勢のチェックとして提案**してはいかがでしょうか。

姿勢施術は、緊張緩和（FA-3）と骨格調整（アクチベータのみ）でも十分効果が得られます。

実施する日に、同時に症状改善の施術もされる場合は、まず姿勢施術を受けていただき、合成比較をした後に普段の症状改善の施術をしてあげてください。

不良姿勢は加齢や体の使いグセによって知らず知らずに強くなっていくものなので、定期的な姿勢のリセットとして計画的な施術を勧めやすくなります。

すでに**姿勢分析をされている場合や、姿勢分析に興味のない患者様の場合は**、普段の施術直後に残存する症状に対して、仕上げのプラスαとして、**テープ施術を提案**されることをお勧めいたします。

特に動作痛を伴う症状には、Before After を体感しやすい施術なので有効です。

イーファス検査の効果を納得していただけると、イーファスを活用した他のメニューも提案しやすくなるので、運用開始時のキャンペーンとして実施される治療院様も多いです。

[目次に戻る](#)

[セルフケア資料配信機能の活用方法](#)

[セルフケア資料配信機能への期待](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【2】-(3) 施術メニュー作成される際の参考資料

メニューを検討される際に参考にしてください。

PDF：「メニューを検討される時の参考資料-1.4」

動画：補足説明（5:52）

〈私が保険治療から自費治療に移行したときの経験〉

提案するメニューは、**ベストなメニュー（一番自信のある施術メニュー：上位メニュー）から提案してあげてください**。最終的に決められるのは患者様自身なので、施術者としては最善の方法から提案してください。

私が自費施術に切り替え初めた頃の話ですが、保険治療の窓口徴収金額よりも高額になることに対して罪悪感を抱き、患者様の金銭的な負担を勝手に気遣って、つい安価な施術メニューから提案したりして、結果中途半端な施術になってしまうことがありました。

絶対に押し売りするような提案になってはいませんが、辛い症状を少しでも早く回復するために、患者様自身もできるだけベストな施術を受けたいと考えておられます。

受けやすい料金である方が喜ばれると思いますが、施術に対する価値を金額に比例して感じられることが多いことから、是非一番ベストな施術メニューから、自信を持って提案するようにしてください。

導入後に詳しく説明させていただきます。

以下の資料はカウンセリングのポイントを説明した動画ですので、時間のある時にこちらも参考にしてください。

動画：◆イーファス 100%活用術 - 2020 (48分 32秒)

※動画の中の患者様説明用シートは、カウンセリングの紹介画像選択画面「CIM 公式の紹介画像一覧」に掲載しています。

【2】-(4) キャンペーン実施される際の参考資料

以下の資料はキャンペーンを患者様に紹介するときのシートです。

キャンペーンを実施される時の参考にしてください。

既存患者様へのシステム導入企画として実施されることをお勧めします。

PDF：[「チラシ「姿勢リセット無料キャンペーン-3.2」※ 高齢者向け](#)

動画：[補足説明](#) (4:35)

PDF: [「キャンペーン用 3 回セットの内容と施術料金表」](#)

Word: [「キャンペーン用 3 回セットの内容と施術料金表」](#) (編集用)

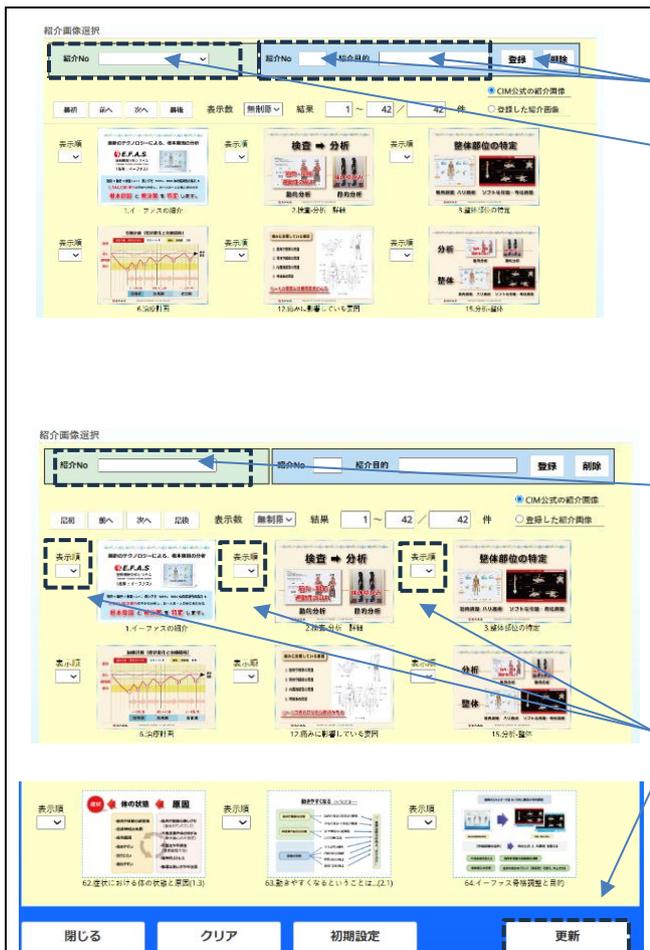
[目次に戻る](#)

[イーファス導入時の既存患者様への提案方法に移動](#)

【2】-(5) カウンセリング機能の活用 (説明画像の紹介機能)

カウンセリング機能では、カウンセリングシーンに合わせた紹介パターンを複数作成する機能です。任意の**画像**を登録しておき、iPad 画面で紙芝居風に説明する機能です。

カウンセリング機能の設定操作	
画面	操作
	<p>①.紹介パターンの作成</p> <p>パソコンでログインすると操作しやすいです</p> <ul style="list-style-type: none">・機能紹介 を押す <p>↓</p> <p>任意の画像を組み合わせて、紹介 No としていくつもの紹介パターンを作ることができます</p> <p>紹介パターンは [紹介画像選択画面] で作成します</p> <ul style="list-style-type: none">・紹介画像選択 を押す <p>・紹介 No と目的を入力し、登録を押すと紹介 No が作成され、左側に表示されます。</p> <p>※作成した紹介 No は削除ボタンで削除できます</p>



②.画像の表示順序の設定

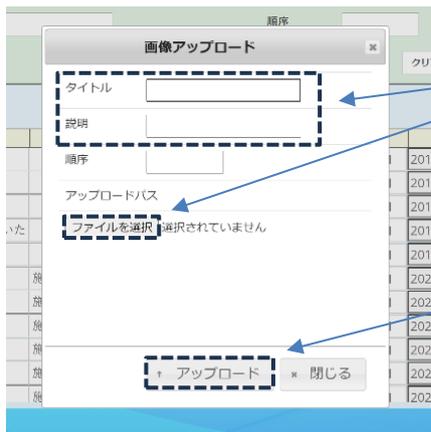
- ・左側の紹介 No に任意の紹介パターン名を表示させます
- ↓
- ・画面右下部の **クリア** ボタンを押してから、表示画像を選択していきます
- ・任意の画像に**表示順を設定**して、画面下部の **更新** を押すと完了で、表示順に表示されるようになります

③.独自の画像で紹介パターンを作る場合

- ・**紹介画像登録** を押して、パソコンに保存している画像をアップロードしてください



- ・**画像登録** を押す



・ タイトル・説明を入力し、ファイルを選択 を押して、パソコンに保存している画像を選択してください

↓

・ アップロード を押すと、一覧に追加されます



・ 登録した紹介画像 を押す

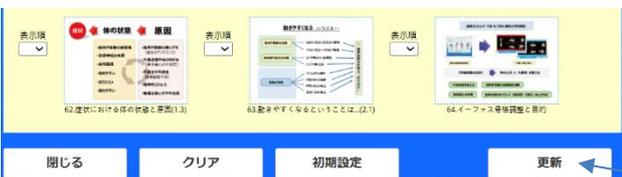
↓

登録した紹介画像にチェックが入り、登録した画像一覧画面に変わります

↓

アップロード後、「CIM 公式の紹介画像」と「登録した紹介画像」の画面を切り替えて紹介順を入力してください

↓



「イーファス公式の紹介画像」と「登録した紹介画像」の両方の画像を登録する場合、それぞれの画面で表示順を設定した後は、画面を切り替える前に、それぞれの画面右下の 更新 を押して設定内容を上書きしてください

※一見同じような画面なので、右上のチェック表示で確認するようにしてください

※更新を押さずに画面を切り替えると、設定した順番は解除されてしまいます

[目次に戻る](#)

〈カウンセリング用 患者説明資料サンプル〉

内容を確認の上、見えそうな資料は自由にご活用ください。

編集される場合は、Word 資料をダウンロードしてください。 ※導入時にはリンク有効になります

※Windows に標準搭載されている Snipping Tool を使えば、パソコンの画面を切り取って、画像を簡単に作成することができます。

PDF：「[動きやすくなるということは…〈横〉](#)」

Word：「動きやすくなるということは…〈横〉」

PDF：「[意外と知られていない姿勢の話〈縦〉 \(3.2\)](#)」

Word：「意外と知られていない姿勢の話〈縦〉 (3.2)」

PDF：「[症状における体の状態と原因〈横〉 \(1.3\)](#)」

Word：「症状における体の状態と原因〈横〉 (1.3)」

PDF：「[イーファス骨格調整と目的〈横〉](#)」

Word：「イーファス骨格調整と目的〈横〉」

PDF：「[イーファス骨格調整と目的〈縦〉](#)」

Word：「イーファス骨格調整と目的〈縦〉」

PDF：「[イーファス施術の紹介〈横〉](#)」

Word：「イーファス施術の紹介〈横〉」

PDF：「[イーファス施術の紹介〈縦〉](#)」

Word：「イーファス施術の紹介〈縦〉」

【2】-(6) イーファスポスターの活用

イーファスのポスターを3種用意しており、**サポート画面から印刷**していただけます。

大判のポスターを希望される時は、サポート事務局までご連絡いただければ、代行してプリントパックへ入稿（発注）し、先生の治療院に代引きで届くように手配いたします。

PDF：「[イーファスポスター \(ABC\)](#)」

※ご希望の用紙・サイズの価格は「[価格表](#)」で調べてください

[価格表 \(プリントパックのページ\)](#) ※費用は価格+代引き手数料

【2】-(7) 配信メールの登録と配信設定方法

〈利用可能プラン： L・W 版〉

登録したオリジナルメールを、以下の画面で設定すれば、配信（自動・手動）することができます。

機能	設定画面	詳細と操作方法
患者様 管理機能	患者マスタ画面	配信基準日を設定し、登録メールを自動配信します
	来院情報の複合検索画面	検索された患者様に、指定した登録メールを一斉に配信します
対象筋表示	対象筋表示画面	ストレッチやテープ画像のメール配信
セルフケア管 理機能	セルフケア配信の 検索画面	配信済の患者様を検索し、登録メールを一斉に配信 します
	セルフケア配信先へ送るメール検 索・登録画面	セルフケア画面を配信した患者様に向けて、作成し たメールを設定した配信日時に自動配信します

※ストレッチ画像とセルフケア視聴 URL のメール配信はすべての利用プランで行えます。

導入後に詳しく説明させていただきます。

【2】-(7)-①. 配信メールの事前登録方法

〈利用可能プラン： L・W 版〉

患者マスタや複合検索結果の患者様に配信するメールを事前に登録しておきます。

【2】-(7)-②. 登録した配信メールの配信設定方法

〈利用可能プラン： L・W 版〉

各画面で配信メールを設定する方法を説明します。

【2】-(7)-③. メッセージ 作成例

【2】-(7)-④. ステップメールの設定方法

〈利用可能プラン： L・W 版〉

患者様ごとに、事前にメール登録した複数のメールを組み合わせた配信パターンを作成し、ステップメールとして自動配信することができます。① → ②の順に設定してください。

[目次に戻る](#)

【3】 利用開始（イーファスの操作）

【3】-(1) 操作フローチャートの構成

イーファスの基本施術は 1～4 の順に 7 つの項目で行います。

順 order	使用チャート Operation chart	項目 topic	内容 content
1	—	1.カウンセリング	①症状や経過の間診 ②提案テクニック → 検査前の説明
2	検査操作	2.動作検査	〈1次検査〉 3次元動作検査
		3.施術目的の選択	選出ロジック設定
		4.骨盤検査	〈2次検査〉 仙腸関節による施術目的の調整 ※選出精度を高める工程です
3	施術操作	5.施術	症状に合わせた方法を組み合わせて施療する
		6.姿勢評価（不定期）	姿勢画像の合成比較 ※毎回はいりません
4	配信操作	7.セルフケア指導	セルフケア配信機能による各ケア資料の配信
不定期	基本操作	必要なときに行います	事前の患者様登録など

※基本操作や配信操作の操作は、施術の空き時間に行うか、助手スタッフの方に作業してもらえます。

【3】-(1)-①. フローチャートの使い方

(1) 検査チャートを選択する

検査から施術画面を表示するまでの操作フローを、初検時と再来時、かつ姿勢分析の有無とを組合わせた4種より、該当する1種のフローチャートを選択します。

※施術用の iPad とは別に、**撮影専用の iPad** を用意してスタッフの方に姿勢撮影を行ってもらう時は、姿勢撮影専用チャートを使用します。 ※専用端末には受付 ID でログインする

(2) 施術チャートを選択する

施術画面に施療する施術方法のフローチャートを選択します。

(3) 配信チャートを選択する

施術後に患者様へ配信する資料のフローチャートを選択します。

※よく使用するフローチャートは、PDF を印刷されると便利です。

【3】-(1)-②. フローチャート 一覧表

操作の種類 operation kind	チャート No	内容 content
検査 フローチャート ↓	1	【初検用】検査フローチャート（姿勢分析なし）
	2	【初検用】検査フローチャート（姿勢分析あり）
	3	【再来用】検査フローチャート（姿勢分析なし）
	4	【再来用】検査フローチャート（姿勢分析あり）
	5	【初検用】検査フローチャート（姿勢撮影専用端末用） 施術前後の姿勢撮影の操作説明
	6	【再来用】検査フローチャート（姿勢撮影専用端末用） 施術前後の姿勢撮影の操作説明
	26	検査フローチャート（運動機能検査）一般症状
	27	検査フローチャート（関節運動検査 名称選択式）一般症状
	28	検査フローチャート（骨盤検査） リバース・ダイレクト両方に対応
+ 施術 フローチャート	7	「骨格調整、距骨テープ」 アクチベータとドロップを使用する操作と距骨テープの説明
	8	「緊張緩和〈FA-3〉+ 骨格調整」 前半と仕上げの2回に分けて行う操作説明
	9	「緊張緩和〈FA-3〉+ 骨格調整 + 筋・筋膜調整」 対象筋選出調整について説明します

↓	10	「テープ施術」 アスリート・テーピングの操作説明
	11	「ストレッチ施術」 アスリート・ストレッチの操作説明
	12	「簡単合成比較から比較画面収録」 簡単合成と合成比較をしている画面を収録する操作説明
	13	「姿勢画像の並列比較」 姿勢画像 並列比較の操作説明
+	14	「セルフケア配信設定」 施術後のセルフケア配信の操作説明
	15	「オリジナル資料の登録」 配信設定画面にオリジナル資料を設定する操作説明
	16	「合成比較収録動画配信」 施術後の収録動画配信の操作説明
	17	「ストレッチ画像配信」 施術後のストレッチ配信（メール & LINE）の操作説明
配信 フローチャート	18	患者 ID 入力画面で患者様を登録、検索する方法 症状管理ボタンから施術を始める場合に使用
	19	患者マスタ画面で患者様を登録・編集・検索する方法 施術前に患者マスタで患者登録するときに使用
	20	過去の施術情報画面の操作 施術が終了した患者様の来院情報の編集や確認などの操作
	21	練習用－サンプル画像を使用した合成比較の iPad 操作 姿勢分析機能の練習用操作フローです
	22	セルフケア視聴画面の閲覧と編集操作 配信済のセルフケア配信を管理・編集する操作
	23	セルフケア配信先への自動メール配信の設定方法 配信中の患者様に自動メールを配信設定する操作
	24	保存画像の検索方法と検索エリアのボタンの操作 画像保存画面で画像検索する操作
	25	施術日登録機能の操作 イーファスの施術を行っていない患者様も含めた全来院患者様を対象とした来院情報を管理する時に行う操作
基本	18	患者 ID 入力画面で患者様を登録、検索する方法 症状管理ボタンから施術を始める場合に使用
	19	患者マスタ画面で患者様を登録・編集・検索する方法 施術前に患者マスタで患者登録するときに使用
	20	過去の施術情報画面の操作 施術が終了した患者様の来院情報の編集や確認などの操作
	21	練習用－サンプル画像を使用した合成比較の iPad 操作 姿勢分析機能の練習用操作フローです
	22	セルフケア視聴画面の閲覧と編集操作 配信済のセルフケア配信を管理・編集する操作
	23	セルフケア配信先への自動メール配信の設定方法 配信中の患者様に自動メールを配信設定する操作
	24	保存画像の検索方法と検索エリアのボタンの操作 画像保存画面で画像検索する操作
	25	施術日登録機能の操作 イーファスの施術を行っていない患者様も含めた全来院患者様を対象とした来院情報を管理する時に行う操作

[目次に戻る](#)

[姿勢分析機能の操作練習の説明に移動](#)

[配信メールの事前登録方法](#)

[施術日登録機能の説明に移動](#)

[\(3\) 【検査操作 : operation kind】に移動](#)

[6:姿勢分析機能の活用目的に移動](#)

[過去に保存した画像の検索方法](#)

[\(4\) 【施術操作 : operation kind】に移動](#)

[\(5\) 【配信操作 : operation kind】](#)

[過去の来院情報の閲覧と編集方法](#)

[配信済のセルフケア視聴画面の管理機能](#)

【3】-(2)【基本操作：operation kind】

【3】-(2)-1: 患者登録と患者検索方法

- チャート：⑱. 患者 ID 入力画面の患者登録や検索方法：詳細版

詳細版 PDF：「[\(18\) 患者 ID 入力画面の患者登録や検索方法 詳細版](#)」

- チャート：⑲. 患者マスタ画面の患者登録や検索方法：詳細版

詳細版 PDF：「[\(19\) 患者マスタ画面の患者登録や検索方法 詳細版](#)」

※他のシステムなどで既に患者 No を取得されているときは、その番号を登録してください。

【3】-(2)-2: 既に終了した来院情報（施術情報）を確認・編集する方法

- チャート：⑳. 過去の施術情報画面の操作フローチャート：詳細版

詳細版 PDF：「[\(20\) 過去の施術情報画面の操作フローチャート 詳細版](#)」

[来院情報の編集画面の説明に移動する](#)

[過去の来院情報の閲覧と編集方法](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(2)-3: 施術日登録機能について

〈利用可能プラン：W 版〉

施術日登録機能は、イーファスの施術を行わない患者様の来院日を登録しておくことで、来院日を検索条件としたメール配信機能を行ったり、全体の来院状況分析をするために使用しますが、イーファスを使用しない患者様へのメール配信や来院状況分析を行わない時は使用しない機能です。

- チャート：㉕. 施術日登録機能の操作：詳細版

詳細版 PDF：「[\(25\) 施術日登録機能の操作 詳細版](#)」

【3】-(3)【検査操作 : operation kind】

初検か再検なのかと、姿勢分析の有無による組合せ4種類から該当チャートを選択してください。

- チャート : ①.【初検用】検査フローチャート (姿勢分析なし) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(1\)【初検用】検査フローチャート \(姿勢分析なし\) 詳細版](#)」

- チャート : ②.【初検用】検査フローチャート (姿勢分析あり) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(2\)【初検用】検査フローチャート \(姿勢分析あり\) 詳細版](#)」

- チャート : ③.【再来用】検査フローチャート (姿勢分析なし) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(3\)【再来用】検査フローチャート \(姿勢分析なし\) 詳細版](#)」

- チャート : ④.【再来用】検査フローチャート (姿勢分析あり) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(4\)【再来用】検査フローチャート \(姿勢分析あり\) 詳細版](#)」

- チャート : ⑤.【初検用】検査フローチャート (姿勢撮影専用端末の操作) 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(5\)【初検用】検査フローチャート \(姿勢撮影専用端末の操作\) 詳細版](#)」

- チャート : ⑥.【再来用】検査フローチャート (姿勢撮影専用端末の操作) 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(6\)【再来用】検査フローチャート \(姿勢撮影専用端末の操作\) 詳細版](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に戻る](#)

[6:姿勢分析機能の活用目的に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術に移動](#)

[検査チャートに関連する詳細説明]

【3】-(3)-1: イーファス施術の概要と施術画面の選出

【3】-(3)-1:-①. イーファス施術の概要 — E.F.A.S 施術は全身調整 —

イーファスの検査は、動作検査により筋骨格系の全身的アンバランス（協調性）を分析し、身体重心の安定性を向上・改善させる施術ポイントや施術方法を特定しています。

全身的な協調性（つながり）の悪さは、身体重心を不安定にさせ、全身性の筋緊張亢進や自律神経の失調、血行動態の不良などによる「傷めやすい原因」「治りにくい原因」になっているので、筋肉や関節の協調性を整えて、身体重心の安定性を高め、自然治癒力がより働きやすい状態に整えようとしています。

では何故動作検査を大事にしているかというと、全身的なアンバランス（つながりの悪さ）は、静的な見た目だけではわからないからです。利き手や利き足、普段の体の動かし方、姿勢、内臓の位置関係、人生途中の身体障害、左右の筋力差などにより、人それぞれに平衡状態が異なっています。たとえ見た目に綺麗であっても、必ずしも平衡状態であるとは言い切れません。

重要なのは、その患者さんなりに、重力に対して身体重心が安定しているかどうかです。重心が安定している状態とは、左右や前後の動きが患者さんなりに釣り合っている状態です。身体重心の不安定性は見えるものではないですが、動作検査ならその状態を教えてください。つながりが悪くなっている動きは、身体重心を不安定にさせるので、安定性を高めるための緊張が生じ、動きにくさや痛みとして教えてくれるのです。

動作検査では、3次元における筋肉関節の動きから、どのような対称関係に問題があるのか、どうすれば対称性が高められ、身体重心の安定性を高められるのかという分析をした上で、施術対象の筋肉や関節の調整方向を特定しています。

なお症状には「全身的な問題」と「局所的な問題」が混在しておりますが、イーファスの施術は特に全身的な問題に効果を発揮します。局所の問題が大きいほど、他の施術と組み合わせると良い結果を得やすくなりますし、イーファスの全身調整効果は、相乗作用として組み合わせた他の施術法の効果も高めやすくなります。

イーファスの施術を一言で患者様に説明するなら、筋骨格系の協調性（連動性）の悪さは、普段の生活における「動きの癖」によって生じているので、「体の使い癖の整体です」と説明すると理解していただきやすいと思います。

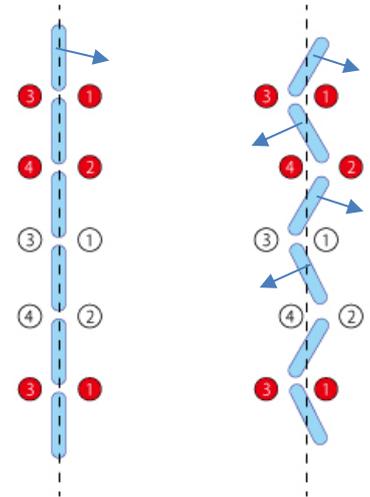
【3】-(3)-1:-②. 対象筋選出理論 (BT療法 : Balance of Tendency)

対象筋や関節の部位・調整方向やストレッチ画像などの選出は、以下の**対称的調整理論**が基になっています。

右図は体節の模式図ですが、日常の動きは右図のような**対称的な連動**や**同方的な連動**の組み合わせによって行われています。

※「同方的」とは、連なる関節が同じ方向に動くことを言います。

イーファスは、3次元の動作検査で見つけた動きにくい筋肉関節に対して、**各運動面において重心の安定性を高めやすくさせるための最適な対称関係を分析し、その対称性を保持しやすいように各施術方法に応じた部位や方向を選出**しています。



選出された筋肉には意外な筋肉が選出していたりしますが、エキスパートなロジックによって選出していますので、ぜひ自信を持って実施してください。

当院の話になりますが、動作検査をして選出された対象筋に、同じように施術をしたとしても、新人施術者とイーファスに慣れた施術者では効果に違いがあります。

これは施術経験を積み、慣れるほど自信を持って施術をするようになるからです。

導入後に詳しく説明させていただきます。

動画 : 対称調整理論の始まりと施術への応用 (36:28)

PDF : 「対称調整理論の始まりと施術への応用 (1.2)」

PDF : 「E.F.A.S 対称調整理論 <2.1>」

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-1:-③. イーファスの分析力

全身調整の施術ポイントの選出にあたっては、動作検査の結果に対する施術目的の設定と骨盤検査の組み合わせ、さらに選出調整機能によって、**1,944,000**通りの施術パターンから患者様に最適な**1**通りの全身施術ポイントを選出しています。

「1/194万通りのエキスパートAI分析」は説明キーワードです。

※AIには、ディープラーニング型AIとエキスパート型AIに大別されますが、
イーファスは、対称性のロジックを基にした**エキスパート型AI**であると説明してください。

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(3)-1:-④. 「施術力を高める秘訣」

ごく当たり前の内容になりますが、その凡事徹底こそが秘訣だと考えており、普段心掛けていることや取り組んでいることをご紹介しますので参考にしてください。

また一段スキルアップしていただくために、『イメージの力』についても説明させていただきましたのでお役に立てていただければ幸いです。

PDF：「施術力を高める秘訣（2.1）」

全体動画：施術力を高める秘訣（1:29:58）

抜粋動画：微弱な刺激の練習 頸部回旋に手部、体幹回旋に大腿部（6:11）

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-2: 動作検査の種類

【3】-(3)-2:-①. 運動機能検査 → 「全身動作による分析」

運動機能検査は、症状に影響している全身性のアンバランス（連動性障害）を分析するために、症状の部位に関わらず、体の中心（腰背部・頸部）の動きを分析する動作検査です。

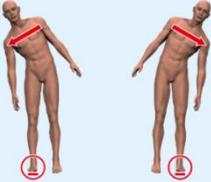
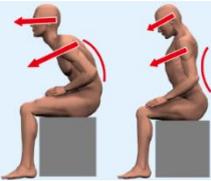
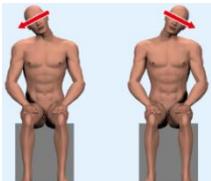
基本的な検査法として最も多用している検査法です。

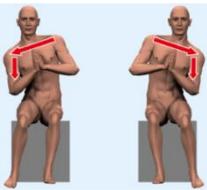
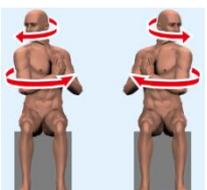
各検査画面の動作は右下の「画面説明動画」ボタンをクリックして視聴できます。

■ チャート：②⑥. 検査フローチャート（運動機能検査） 詳細版

詳細版 PDF：「[\(26\) 検査フローチャート（運動機能検査） 詳細版](#)」

〈運動機能検査 各動作検査図のトーク〉

動作図	動作	トーク
	前屈	肩幅くらいに足を開いて、つま先に体重をのせて体を前に倒してください
	後屈	手は下へ降ろし、おへそを見ながら、体を後ろに倒してください
	右側屈	肩幅くらいに足を開き、右足に多く体重をのせたまま、体を右に倒してください
	左側屈	肩幅くらいに足を開き、左足に多く体重をのせたまま、体を左に倒して下さい
	前屈	背中を丸くして、前方を見ながら体を前に倒してください
	前屈	胸をはり、背中を反ったまま、やや下を見ながらおへそを前に押し出すように体を前へ傾けてください
	後屈	胸をはり、背中を反ったまま、体を後ろに5センチ倒してください
	後屈	背中を丸くしたまま、体を後ろに深く倒してください
	頸部 右側屈	首を右に倒して、左側を伸ばしてください
	頸部 左側屈	首を左に倒して、右側を伸ばしてください

	体幹 右側屈	胸の前で両手を合わせて、手を胸につけて下さい。 まず右肩を下げてから、体を右に倒して下さい ※左腰部を伸張していただくように誘導して下さい
	体幹 左側屈	胸の前で両手を合わせて、手を胸につけて下さい まず左肩を下げてから、体を左に倒して下さい ※右腰部を伸張していただくように誘導して下さい
	体幹左回旋 頸部右回旋	胸の前で両手を合わせて、手を胸につけて下さい まず体を左に回して、次に首を右に回します 濡れたタオルを「ギュ～」としぼるようにねじってください
	体幹右回旋 頸部左回旋	胸の前で両手を合わせて、手を胸につけて下さい まず体を右に回して、次に首を左に回します 濡れたタオルを「ギュ～」としぼるようにねじってください

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-2:-②. 関節運動検査 → 「局所動作からの分析」

- ・局所に顕著な動作痛を認めるときに有効な方法です。
- ・四肢の症状に有効な場合があります。
- ・全身的な問題よりも、局所の問題が大きい場合に有効です。
- ・運動面ごとに、最も評価しやすい関節で検査します。

症状関節に対して、どこが（関節）・どんな動きで（方向）・どうなふうに（痛み種類）を検査します。

関節運動検査には「画像選択式」と「名称選択式」があり、患者様と画面に従って検査をする場合は「画像選択式」を選択し、「名称選択式」は術者が患者様に動作を指示し、その結果を名称で入力する流れで検査を行いますが、画像選択式に比べ名称選択式の方が、検査時間が短く行えるので、**普段は名称選択式**で行っています。

■ チャート：⑳. 検査フローチャート（関節運動検査 名称選択式） 詳細版

詳細版 PDF：「[\(27\) 検査フローチャート（関節運動検査 名称選択式） 詳細版](#)」

動画：[関節運動検査 Ver2.0（15:44）](#)

〈検査を行う関節と痛みの種類（伸収・短収）の入力方法〉

1. 基本は主訴の関節の動きを入力しますが、矢状面・前額面・水平面において、もっとも症状を感じる関節の動きをリストから選択してください。各運動面で選択する関節は同じでなくてもいいです。

↓

2. 主訴の関節において可動方向がない運動面は、腰部か頸部の動きで入力してください。
例えば膝関節痛の場合、矢状面と水平面からの2つの運動面情報しか得られませんが、そうした時は、頸部か腰部のいずれかの前額面情報を入力してください。

※3つの運動面情報を入力する方がより選出精度が高くなります。

↓

3. 相対する両方の動きで痛みを感じる時は、より痛みを感じる動きの方向を入力してください。
より強い状態から改善していくという考え方です。

↓

4. 痛みの種類の判別方法

「伸収」とは伸張性収縮のことで、「短収」とは短縮性収縮のことです。

〈痛みの種類の判別方法（伸収 or 短収）〉

患者様が「伸びにくい」と明確に回答された時は、「伸収」として良いです。

しかし、「縮みにくさ」や「つまり」と回答された場合は、安易に「短収」と評価しないようにしてください。

「縮みにくさ」や「つまり」の中には、筋肉の問題ではなく、関節か関節周囲組織のつまり（インピンジメント）の場合があるからです。

筋肉の短縮痛に見える場合でも、関節のインピンジメントのケースであったり、動きにおいて伸張される筋肉（反対の筋肉）の伸張性収縮（支え）が正常に働かないために生じているケースであったりするので、そうした場合、伸長側の筋肉の支えが改善すると短縮痛はたちまち消失します。

なので、患者様が「縮みにくさ」「つまり」と回答されたときや、痛みの種類が判別できないときは、次に説明する動きの現れ方で評価してください。

〈動きの現れ方による痛みの種類の判別方法と関節運動検査の入力方法〉

相対動作における動作痛の現れ方は以下の3つしかなく、痛みの現れ方により短縮性収縮痛（短収）なのか伸張性収縮痛（伸収）なのかを判別することができます。

パターン①

相対動作において **1方向にのみ現れている痛み** は、その方向と伸収を入力してください。
例えば、首の左右側屈動作をしたときに右側屈にのみ動きにくさを認めるような場合です。
この場合は頸椎関節と右側屈と伸収を入力してください。

パターン②

相対する **2方向で痛みを認めるも、それぞれ痛む部位が異なる場合**、これはそれぞれ1方向の痛みとして判断します。より強く痛みを感じる動きの方向と伸収を入力してください。

パターン③

相対する **2方向で痛みを認め、しかもその痛む部位が同じ場合**は、より強く痛みを感じる動きの方向と短収を入力してください。

↓

例えば頸部の左右側屈の両方で動きにくく、右側屈の方が動きにくい場合で、右側屈時の動きにくさを感じる同じ箇所に左側屈したときも症状を感じる時です。

このケースでは、頸椎関節と右側屈と短収と入力してください。

〈短縮性収縮痛とインピンジメントの見分け方〉

短縮痛が現れる状態の時は、同時に伸びにくさ（伸長）も現れるという現象から、例えば頸部の左回旋時の左側の詰まるような痛みの場合、詰まりを感じた部位に右回旋時に症状が出なければ、左回旋時の詰まり感は短縮している筋肉ではなく伸張している右回旋筋の伸びにくさが原因で生じているので、このケースでは、頸椎関節と左回旋と伸収と入力します。

同じ頸部の左回旋時の左側の詰まるような痛みでも、その詰まりを感じた同じ部位に右回旋時に症状や違和感を感じる場合は、左回旋時の詰まり感は短縮性伸縮痛と判断します。このケースでは、頸椎関節と左回旋と短収と入力します。

【3】-(3)-2:-③. 姿勢検査 → 座位のバランス検査

説明動画なし。画面の形を参考に、その肢位の最終域で2秒ほど保持した状態を評価してください。

- ・高齢者などで通常の動作が困難な方に行う運動機能検査の簡易的な検査方法です。
 - ・健康管理の段階で動きが評価しにくいときも、簡易的な方法として利用することがあります。
- ※姿勢検査を行った場合の施術目的は、「局所安静+安定」と「動作向上+安定」のみ選択できます。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-2:-④. キーワード入力

対象筋表示画面の下部に表示しているキーワードを入力すると、同じ内容の対象筋表示画面を表示させる機能です。イーファスを利用している他の治療院から転院された場合に、前院の最後に表示していた対象筋表示画面を同じ状態で表示することができます。

しかし、初検時に改めて動作検査するので、実際に使用することはほぼありません。

【3】-(3)-2:-⑤. 動作検査を実施するときのポイント（全検査共通）

1. 初めて動作検査をする方には、動作を2回するようにしてください。
1回目に動作を説明し、2回目で評価するようにします。また検査動作は、術者も患者様と一緒にいながら、「言葉」と「動き」によって誘導すると患者様も動きやすくなります。
2. 動作の最終域で2秒ほど伸ばそうとしている状態を評価してください。
3. 主訴と離れた場所に感じる感覚も評価し、複数個所に痛みがある場合は、最も強く感じる症状を評価してください。
4. 「痛み」だけでなく、「動きにくさ」や「違和感」も評価してください。
「痛み」>「動きにくさ」>「違和感」>「術者の見た目」の優先順位で評価してください。

術者の見た感じ（客観的評価）と患者様の訴え（自覚症状）が異なる場合は、患者様の訴え（患者様の感覚）を優先して評価してください。

後遺症や使いグセによって、一見可動域制限を認めてもその人にとっては正常な場合があるからです。イーファスで行う動作検査は、可動域の計測ではなく、患者様のありのままの重心の不安定性（傾向）を評価するようにしてください。

しかし、患者さん自身の訴えが不明瞭な場合は、検者の見た感じで判断していただければ結構です。

5. 相対する動作でそれぞれに痛みがある場合、痛みを比較してより痛みの認める方向を入力(選択)してください。
6. 痛みや動きにくさを探しても評価しにくい場合は、動きやすい動作はどちらかを尋ねてください。特に動作痛がない場合などは、動きにくさは評価できなくても、動きやすさで尋ねられると評価しやすくなりますので、動きやすい方向を聞き、その逆方向を動きにくいとして入力(選択)してください。
7. 水平面検査は他の運動面検査に比べ、身体重心が安定している運動面の動きなので、元々評価しにくい運動面です。なので、2回目動作の最終域では術者が少し回旋を介助（伸張）してください。

例えば体幹の水平面検査が評価しにくいときは、術者が患者様の背面から、回旋の最終域で両肩を把持し、回旋動作を後押しするように捻じりを手伝うと評価しやすくなります。

また、水平面検査で評価しにくいときは、矢状面か前額面で動かしにくかった動作と複合的な動作をしていただくと評価しやすくなります。複合動作とは、2つの運動面動作を順に複合させて行うことです。

8. 2つの運動面は必ず評価する

症状や体の状態によって動きにくさがわずかであっても評価していただく方が対象筋肉を絞り込むことができます。3つの運動面検査(矢状面・前額面・水平面)のうち、2つの運動面は最低でも評価するようにしてください。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-3: 施術目的の選択

施術目的は、動作検査の結果に対して、働かせる選出ロジックのことです。
対称性を強く働かせるのか、弱く働かせるのか、逆に働かせるのか、というアプローチの違いだと理解してください。

【3】-(3)-3:-①. 施術目的の選択方法

- 1.まず局所安静系がいいのか、動作向上系がいいのかを選択します。
↓
- 2.次に「+安定」をつけるか付けないかを判断するという流れになります。

【3】-(3)-3:-②. 「+安定」の有無による選出ロジックの違い

「+安定」をつけた場合、各運動面の選出において、身体重心に対してより優先する面を考慮しつつも、相対する反対の面からも選出するので、施術後の身体重心の安定性（支持性）を高めることも考慮した選出を行います。

一方「+安定」を付けない場合は、各運動面の選出において、身体重心に対してより優先度の高い面のみで選出を行います。

なので、最も症状に影響している運動面の動作で、1方向の顕著な動作痛を認める場合は「+安定」を付けず、双方向の動きで症状を認める場合は「+安定」をつけるようにします。

なお、「+安定」を付けない時は、施術による身体重心への傾斜傾向は強く働くので、施術によって動きやすくなる半面、身体重心の安定性をやや下げることがあり、施術後に疲れやすくなる場合は、次回に「+安定」を付けてください。特に体力が低下していたり、患者様が高齢であったりする場合は注意してください。

症状的に「+安定」をつけない方がベストな場合に「+安定」を付けると、多少効果は低下しますが、効果がなくなるほどではありませんので、選択を迷われる時は「+安定」をつけておく方が無難です。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-3:-③. 症状による施術目的の選択基準

通常は「局所安静（+安定）」か「動作向上（+安定）」のいずれかを選択します。

↓

「局所安静（+安定）」の意味は、動きにくくする調整で、動作検査で見つけた動きが身体重心を不安定にさせてしまう状態のときに有効な施術目的です。

➔ 局所に安静が必要な場合や自発痛の強い時、損傷を認める場合に選択してください。
また、健康管理の時も適しています。

「動作向上（+安定）」の意味は、動きやすくする調整で、動作検査で見つけた動きにくさが改善すれば身体重心の安定が高まる状態のときに有効な施術目的です。

➔ 安定期で、「より動きやすく」という目的の場合に選択します。
症状が改善中ではあるものの、停滞感がある場合にも適しています。

「局所安静+安定」は、健康管理や疲労回復という意味もあるので、
迷うときは、「局所安静+安定」を選択してください。

動画：[施術目的の選択 6分38秒](#)

[目次に戻る](#)

次ページに施術目的ボタンの選択基準をまとめています。

↓↓↓

〈施術目的ボタンの選択基準表〉

5つの施術目的ボタンと選択基準表		
1	局所安静	<p style="text-align: right;">〈表示：L・W版〉</p> <p>局所の安静を条件に選出します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所に炎症や組織損傷を認め、安静が必要な場合に選択します。 ・1方向の顕著な動作時痛を認める場合に有効です。
2	局所安静 +安定	<p style="text-align: right;">〈表示：全施術版〉</p> <p>局所の安静 かつ 身体重心の安定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「+安定」は、局所の安静と身体重心の安定性を同時に考慮した選出をします。 ・安定期には疲労回復を目的とした施術に適しています。 ・1方向の顕著な動作痛ではない場合は「+安定」をつけます。
3	予防	<p style="text-align: right;">〈表示：L・W版〉</p> <p>症状がない状態で、疲れにくくする目的に適しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所と関連の高い筋肉グループを選出しますので、予防を重視した施術に適しています。
4	動作向上	<p style="text-align: right;">〈表示：L・W版〉</p> <p>パフォーマンス向上に最も適しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所に炎症や組織損傷がない場合に、全身の動きにくさを改善します。
5	動作向上 +安定	<p style="text-align: right;">〈表示：全施術版〉</p> <p>パフォーマンス向上 かつ 身体重心の安定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きの改善を目的とします。 ・「+安定」は、動きやすさと身体重心の安定性を同時に考慮した選出をします。 ・症状が改善するも、停滞感がある時に有効な場合があります。

〈迷われる時のアドバイス〉

イーファスは対称的な調整を行っているので、施術目的を逆に選択したとしても、良くなりにくいですが悪くなることはほとんどありません。ただし、局所に損傷や炎症を認める場合は、局所を刺激しすぎると所謂もみ返し様の症状が出ることがあるので注意してください。

④⑤動作向上系は、高齢者などで体力が低下していたり、炎症症状を認めたりする場合は、動きやすくなることが、疲れやすくなる原因になることがあり、患部に負担になる場合があるので注意してください。

↓

直後は良いが、動きやすくなるため、後から疲れ（痛み）が現われるといった場合があります。普段あまり体を動かさない高齢の方は、当日の夜に「カラダが重く感じた」などと言われることがあります。そうした時は、次回「+安定」を付けてください。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-4: 骨盤検査

選択した施術目的が適切かどうかを患者様の体（仙腸関節調整）に伺うという意味があり、かつ3次元の運動面それぞれで、適切な施術目的を設定することができ、骨盤検査を行うことで、施術目的の精度をより高めることができます。

しかし、明確な症状がなく、体の状態が安定していたり、動作検査で明確な動きにくさが認められなかったときは、骨盤検査で評価しにくい場合が多いので省略する場合があります。

■ チャート：⑳. 検査フローチャート（骨盤検査 / リバース・ダイレクト兼用）

[詳細版 PDF：「\(28\) 検査フローチャート（骨盤検査） 詳細版」](#)

【3】-(3)-4:-①. 骨盤検査の流れ

骨盤検査は、水平面 → 前額面 → 矢状面の順で画面の図を参考に行います。

【3】-(3)-4:-②. 骨盤検査を行う手法

通常徒手かアクチベータで行いますが、操作が簡単なので、アクチベータで検査されることを推奨しています。

基本動画（T）：[骨盤検査の方法 Ver2.0（23:34）](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

応用動画（R）：徒手による骨盤検査〈詳細〉（19:14）

※施術力を高める秘訣より抜粋

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-4:-③. 検査手法の違いにおける目的変更ボタンの選択方法

アクチベーターを使用する場合、アクチベータにはリバース作用があるので、画面の右図で検証動作が動きやすくなる場合は、「目的変更なし」を選択し、左図で動きやすくなる場合は、「目的変更あり」を選択します。※表記される位置（側）とは逆になるので注意してください。

徒手で行う場合、徒手はダイレクト作用として行うので、画面の左図で検証動作が動きやすくなる場合は、「目的変更なし」を選択し、右図で動きやすくなる場合は、「目的変更あり」を選択します。



手法に対応した選択方法を表記しています。

ダイレクト調整の場合、左図が設定目的の方向「目的変更なし」です。

リバース調整の場合、右図が設定目的の方向「目的変更なし」です。

不明瞭の場合は「不明瞭」を選択してください。

【3】-(3)-4:-④. アクチベータによる骨盤検査の参考動画

基本動画 (TR) : [アクチベータとポータブルDの調整方法](#) (10:35)

導入後に詳しく説明させていただきます。

練習動画 (TR) : アクチベータとポータブルDの練習〈導入説明〉(26:16)

復習動画 (R) : アクチベータによる骨盤検査 (詳細) (7:37) ※施術力を高める秘訣より抜粋

[目次に戻る](#)

〈アクチベータの紹介〉

Amazonで「アクティベーター」で検索するといろいろな商品が検索されます。 当院で使っているもの（右図）が比較的安価でお勧めです。



【3】-(3)-4:-⑤. 骨盤ケア画面で行う骨盤検査の方法

骨盤ケアは徒手のダイレクト作用として行いますが、**実際に施術として行うことは殆どありません。**

骨盤ケア画面の操作	
画面	操作
	<ul style="list-style-type: none"> 対象筋表示画面で、骨盤ケア を押す
	<ul style="list-style-type: none"> ↓ 骨盤ケアの準備として、初めに骨盤ケアの準備という画面が開きますので、 ↓ 患者様に骨盤の高さを確認していただき、座り方も説明してください ↓ ・次へ を押す ↓ 施術目的に応じた骨盤ケアの実施画面が表示されます 検証動作のうちまず水平面のチェック（左図）から行い、その次に前額面のチェック（右図）を行います



※それぞれチェックする直前に検証動作をしていただき、必ず動きにくさを体感してもらってから行ってください。そして、直後に動きが改善しているかどうかを確認してもらいます

↓

初めに左図の調整から行います

左図は水平面の調整になります

↓

・まず2.3回大きめの、ゆったりとした呼吸をしてもらいます

・左側の図を参考に、手を密着させたままで、**深呼吸3回**をしていただきます

※強く押さえずに、密着させる感じで構いません

↓

・検証動作の水平面の改善を確認してください

↓

〈評価〉

動作が改善（楽）されるかを患者様に確認してください
改善（楽）を体感されるときは、水平面の分析としては今回設定した施術目的が体にあるという判断をしますので、「**目的変更なし**」です

改善（楽）を体感できないときや、逆に動きにくくなる時は、**反対の右骨盤を後ろから手当し同様にチェック**します

反対の骨盤の手当て改善（楽）を体感されるときは、施術目的を反対にするので、後で骨盤検査の画面で「**目的変更あり**」を設定します

両方共で改善が確認できないときは、先生の判断を優先し、設定した施術目的のままでセルフケアを指導します

↓





次に右図の調整を行います

右図は前額面の調整になります

- ・まず2.3回大きめの、ゆったりとした呼吸をしてもらいます
- ・右側の図を参考に、手を密着させたままで、**深呼吸3回**をしていただきます
※強く押さえずに、密着させる感じで構いません

↓

- ・検証動作の前額面の改善を確認してください

↓

〈評価〉

改善（楽）を体感される時は、前額面の分析としては今回設定した施術目的が体にあるという判断をします
ので、「**目的変更なし**」です

改善（楽）を体感できない時や、逆に動きにくくなる時は、**反対の右骨盤を後ろから手当して同様にチェック**します

↓

反対の骨盤の手当て改善（楽）を体感される時は、施術目的を反対にするので、後で骨盤検査の画面で「**目的変更あり**」を設定します

両方共で改善が確認できない時は、**先生の判断を優先し**、設定した施術目的のままでセルフケアを指導します

↓

水平面と前額面の結果による骨盤検査画面の設定方法

↓

■**水平面と前額面の両方で図の通りの手当て改善が認められた**ときは、選択した施術目的が適しているということなので、対象筋画面に戻り、**その目的設定のまま施術**を行います

■水平面と前額面の両方で反対の手当で改善が認められたときは、選択した施術目的が反対であったということなので、対象筋画面に戻り、**施術目的を反対に設定し直して**検査完了です。**骨盤検査画面での設定は行いません**
 ※施術目的を反対にするとは、「局所安静系」を選択していたのであれば「動作向上系」に設定し直すことです

■水平面と前額面のいずれかのみが反対側の手当でよかった場合は、**骨盤検査の画面でその情報を設定します**

〈骨盤検査の設定方法〉

対象筋画面に戻って、**骨盤検査** を押してください



目的チェックで**反対側の手当が良かった運動面は**

「**目的変更あり**」を選択し、

目的チェックで骨盤ケア画像の**矢印で良かった運動面は**

「**目的変更なし**」を選択します

(重要) 骨盤ケアで骨盤検査を行う時は、**矢状面の選択は、水平面の選択と同じにしてください**

水平面で「目的変更あり」を選択した場合は、**矢状面も**

「目的変更あり」を選択してください

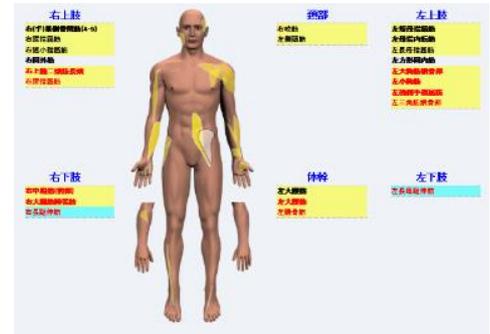
選択が完了して **対象筋表示** を押すと、選択状況が反映されて再選出した対象筋画面に戻ります



【3】-(3)-5: 対象筋表示画面の見方と選出ロジックの調整機能

【3】-(3)-5:-①. 施術優先順位の見方

表示筋肉は「マーカーの色」「文字の太さ」「文字色」の組合せで表示され、下記の表示ルールにより優先順位を判別することができ、順位が高いほど施術優先度は高くなり、黒文字と赤文字の両方が表示されている場合は、黒文字の方が優先度は上位になります。



ここで示す優先順位は、筋肉の作用や関節の方向において、身体重心を安定させるためにより効率よく施術するという視点で特定されています。

動画：[対象筋表示画面の使い方 9分57秒](#)

	マーカーの色	太さ
第1位	黄色	太字
第2位	黄色	細字
第3位	青色	細字
第4位	なし	太字
第5位	なし	細字

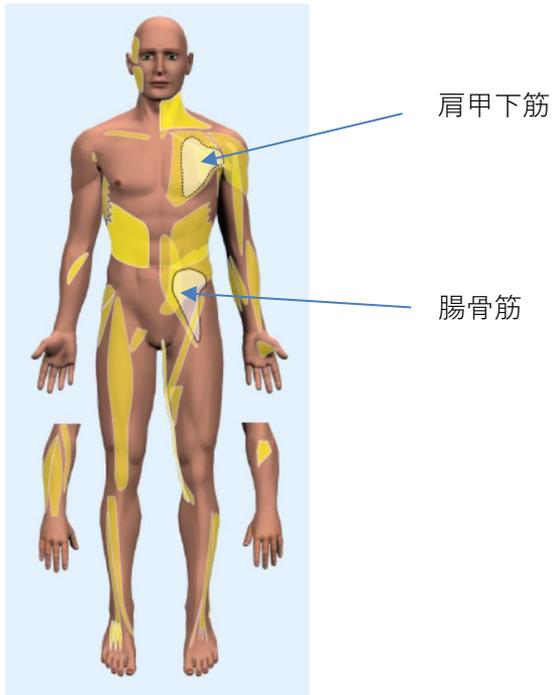
(例)黒文字と赤文字の両方が表示される場合

1位	表示筋肉	黄色マーカー + 太字 + 黒文字
2位	表示筋肉	黄色マーカー + 太字 + 赤文字
3位	表示筋肉	黄色マーカー + 細字 + 黒文字
4位	表示筋肉	黄色マーカー + 細字 + 赤文字
5位	表示筋肉	青色マーカー + 細字 + 黒文字
6位	表示筋肉	青色マーカー + 細字 + 赤文字
7位	表示筋肉	+ 太字 + 黒文字
8位	表示筋肉	+ 太字 + 赤文字
9位	表示筋肉	+ 細字 + 黒文字
10位	表示筋肉	+ 細字 + 赤文字

[目次に戻る](#)

【3】 - (3)-5:-②. 人体図に白色マーカで表示する対象筋

選出筋は基本黄色マーカで視覚化していますが、下記の2つの筋肉は深部の筋肉のため、白っぽいマーカで表示しています。



[目次に戻る](#)

【3】-(3)-5:-③. 選択検査機能

対象筋表示画面の右上エリアにある「選択検査」は、症状管理画面 → 患者 ID 入力画面に進み、採番して施術番号を取得している施術の場合に、その施術番号に対して、3つの運動検査において直近の結果を各1つずつ記憶しておける機能です。

使用するシーンとしては、例えば前回に運動機能検査で施術していて、経過がもうひとつ良くない時に、前回とは異なる関節運動検査で施術する場合などで、施術の検証に便利な機能です。

実際のフローは、症状管理画面 → 患者 ID 入力画面に進み、採番後「前回」+「対象筋表示」で、前回終了時の対象筋画面を開き、「動作検査をやり直す」ボタンから関節運動検査を行うというフローです。選択検査ボタンには前回の検査情報（運動機能検査結果）も記憶した状態なので、途中で切り替えて確認することができます。

〈動作検査 から始めた場合の対象筋表示画面〉



動作検査 から始めた場合



左図は、運動機能検査をして、施術目的に局所安静を選択しているケースで、「運動」が選択されている状態です。



画面下の「検査をやり直す」ボタンを押して、関節運動検査で検査をやり直すと、

↓

選択検査で「関節」が選択された状態に変わります。

このケースでは、選択検査の「運動」と「関節」を押し変えると、選出結果を切り替えられるようになります。

※選択検査機能は、2次選出とモード選択の選択状態も記憶しています。 ※W版のみ

[目次に戻る](#)

〈過去の施術情報を呼び出したときの選択検査について〉



症状管理画面 → 患者 ID 入力画面に進み、採番した後、「前回」と「対象筋表示」を押して対象筋表示画面を開いたときは、左図のように「過去施術の保持」ボタンが選択状態で開きます。

例えば前回施術で運動機能検査と関節運動検査を行っている場合は、選択検査のボタンを切り替えると、それぞれの結果が表示されます。

※基本「過去施術の保持」は選択状態にしておいてください。

※症状管理画面から始めている場合の過去施術の記録保持は、対象筋表示画面を「前回」+「対象筋表示」で開いたときにのみ有効です。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-5:-④. 選出される対象筋の絞込み機能

以下の機能は、選出筋肉に対して、より有効性の高い筋肉を絞り込む機能です。

※利用プランによって搭載されます。

〈利用可能プラン：全施術版〉

主選択	選択された筋肉の中から、主な筋肉を絞り込む ※既定値では選択された状態（オレンジ）になっています
表示ボタン	数字は、「1」→「2」→「1」と変わります ・「1」選択のときは、選出順位 1,2 位の対象筋を表示します ・「2」選択のときは、1~4 位までの対象筋を表示します ※既定値では「1」が選択されて最も絞り込まれた状態で表示しています ※アスリート版は「1」→「2」→「3」→「1」と 3 段階で変わります 対象筋表示数が少ないときは、画面下の表示モードの「 <u>1</u> 」を押すと、「 <u>2</u> 」に変更され、表示筋肉数を増やせます。表示がさらに少なければ「 主選択 」を押して解除、それでも少なければ「 <u>優先</u> 」を押して非選択状態にします ※動作検査で評価しない運動面があるときは、「1」は選択できません

厳選	<p>基本の選出では、3つの運動面情報において、矢状面と前額面のいずれかを優先的な選出条件（基準面）とし、水平面情報を組み合わせた選出をしていますが、選択状態にすると、矢状面と前額面情報のうち非基準面の選出条件を少し強く働かせます。なので、さらに優先度の高い筋肉に絞り込める場合があります</p>
----	--

【3】-(3)-5:-⑤. 肢位表示機能

[2] → 2肢位（仰臥・伏臥の2表示を切替）※初期設定



[4] → 4肢位（仰臥・伏臥・右上側臥・左上側臥の4表示を切替）



対象筋表示画面を開いた直後、初期設定で2肢位表示ボタンを選択した状態になっています。対象筋表示画面でボタンを押して肢位表示を変えられますが、対象筋表示画面を開いたときに、毎回4肢位設定で開きたいときは、以下の方法で設定を変更できます。

↓

設定変更は、メイン画面 → 所属院・施術者管理 → 施術者マスタで画面を開くと、

肢位種別項目がありますので、そちらの項目で変更できます。

変更した時は、右下の登録を押して更新してください。



複数の施術 ID を発行している場合は、それぞれの ID ごとに設定できます。

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-5:-⑥. モード選択機能

〈利用可能プラン：L・W版〉

基本選出ロジックは、矢状面と前額面のいずれかを基準面として設定し、その基準面情報と水平面情報を組み合わせて対象筋を選出しています。

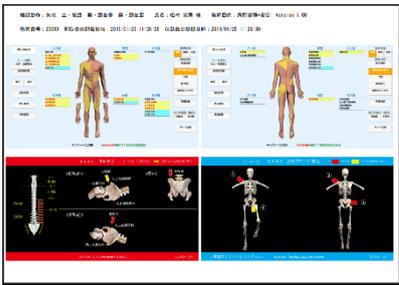
<p>矢状・前額 選出</p>	<p>選択した時には、矢状面と前額面における基準面設定（優先順位）を解除して、矢状面と前額面の検査情報に優先度を付けず、そこに水平面情報を組み合わせて選出するロジックを働かせる機能です 水平面検査を評価するときに、あまり明確に評価できなかった時は、矢状・前額選出を選択することがあります</p>
<p>基準面切替</p>	<p>動作検査の設定内容により、矢状面と前額面のいずれかを基準面として自動設定していますが、その基準面設定を他方に切り替える機能で、切り替えると選出し直します 普段に比べて効果が得にくいと判断した場合に選択することがあります</p>

【3】-(3)-5:-⑦. 画面 SS と調整図印字機能

〈利用可能プラン：L・W版〉

複数の患者さんを同時に施術するときなどに使用します。

[画面 SS] は、その時点の対象筋や骨格調整図をイーファス内部に一時記録する機能なので、調整図印字を表示する直前に押してください。

<p>調整図印字 画面</p>	<p>印刷サンプル。</p> 	<p>対象筋画面（仰臥図・伏臥図）、 骨格調整図（リバース画面:赤）、 三角ブロック画面、 を1枚のPDF資料として生成します</p>
---------------------	--	---

動画：[複数の患者様を同時に施術する（画面 SS と調整図印字機能）4分10秒](#)

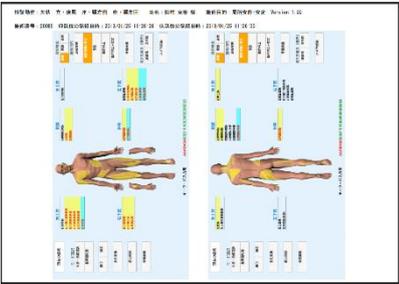
[目次に戻る](#)

【3】-(3)-5:-⑧. 調整図印字機能（オンライン施術用）

〈利用可能プラン：L・W版〉

対象筋表示画面下の **【調整図印字（オンライン施術用）】** ボタンを押すと、仰臥と伏臥の対象筋図を1枚のPDF資料にして表示・印刷することができますので、**患者様用**として、自身でセルフマッサージをしていただく時や、マッサージクリームを使用される時の参考として資料を作成する機能です。なお印刷して配布する以外に、セルフケア配信機能の設定をするときに、セルフマッサージ資料を設定☑しておけば、配信画面の中で患者様に閲覧していただけます。

[画面SS] は、その時点の対象筋や骨格調整図をイーファス内部に一時記録する機能なので、調整図印字（オンライン施術用）を表示する直前に押してください。

<p>調整図印字 (オンライン施術用) 画面</p>	<p>印刷サンプル.</p> 	<p>押した時点の対象筋表示状態で 仰臥位と伏臥位の図を1枚のPDF 資料として生成します</p>
------------------------------------	---	---

導入後にシステムの初期設定を確認してもらいます。

詳しくは導入時に説明させていただきます。

【3】-(3)-5:-⑨. 2次選出と急性変換機能

[第2次選出機能]

〈利用可能プラン：W版〉

<p>運動性優先</p>	<p>選出された筋肉の中から、運動性の改善に有効な筋肉に絞り込む</p>
<p>支持性優先</p>	<p>選出された筋肉の中から、支持性の改善に有効な筋肉に絞り込む</p>

[急性変換機能]

〈利用可能プラン：W版〉

<p>急性変換</p>	<p>可動域が極端に制限されている症状に対する特殊な選出ロジックを働かします</p>
-------------	--

PDF：「急性変換ボタンの使い方（4.0）」

[目次に戻る](#)

[3] -(3)-5:-⑩. サブ機能画面（現在の症状メニュー画面）

サブ機能画面ボタンは、対象筋表示画面の左上に配置しており、クリックすると「現在の症状メニュー画面」が開きます。



※○が付いているプランに搭載しています

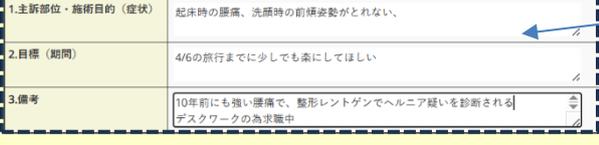
表示ボタン	機能ボタンと利用目的	搭載プラン			
		W	L	SP	SPS
カウンセリング	以下のカウンセリング用の画面遷移ボタンを表示 ・画像比較－サンプル画像で比較機能を紹介する ・EFAS 機能紹介－紹介パターンで説明する ・紹介画像選択－紹介パターンを作成する ・紹介画像登録－オリジナル画像を登録する	○	○	○	○
施術計画	施術計画の内容を記録する	○	○	－	－
画像撮影	画像保存画面を開く	○	○	○	○
症状一覧	問診・患者応対などを記録する	○	○	－	－

※来院情報の編集画面の左サイドエリアにもボタン表示があります。

[目次に戻る](#)

[3] - (3)-5:-①. 施術計画 の入力方法

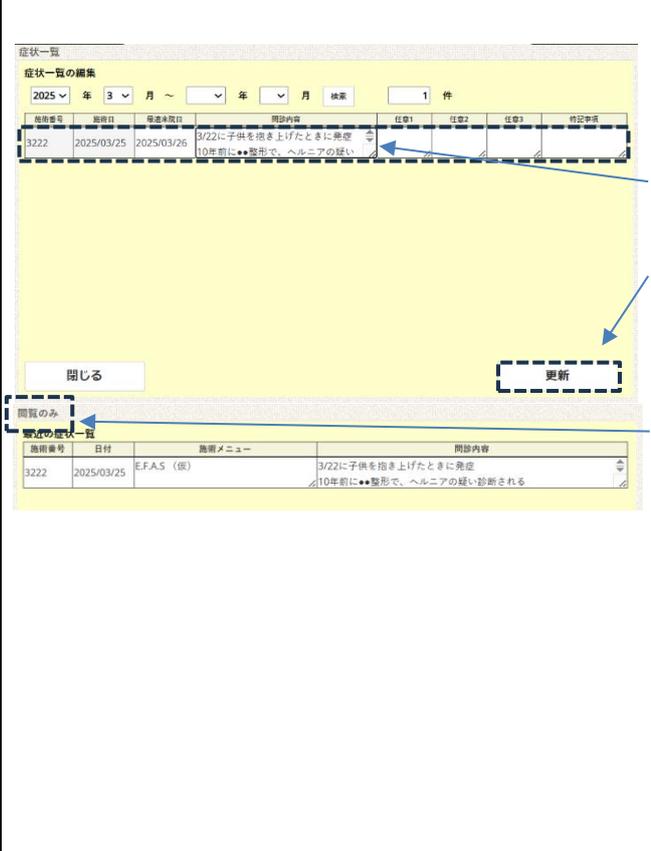
〈利用可能プラン : L・W 版〉

画面	操作
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施術計画 ボタンを押して、進行中の施術計画表を開く
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規 を押す
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 採番 を押す
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画 を入力する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録 を押す
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完了 を押す
	<p>確認画面が表示される</p> <p>※編集した時は 更新 を押してください</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完了 を押す
	<p>登録されて、過去施術計画一覧を表示します</p>

[目次に戻る](#)

【3】 - (3)-5:-⑫. 症状一覧 の入力方法

〈利用可能プラン : L・W 版〉

画面	操作
	<p>画面を開いた日付（施術日）の入力欄が表示</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診内容を <u>入力</u> する <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>更新</u> を押す <p>↓</p> <p>下部の「閲覧のみ」に保存・記録されます</p> <p>※当日であれば、再度症状一覧を開き、問診内容を編集することができます。編集した時は 更新 を押してください</p> <p>※過去の入力データは編集できません。</p>

[目次に戻る](#)

【3】-(3)-6: 姿勢分析機能の活用目的

目的の一つ目は、よりしっかりとした根本施術の必要性を納得していただくことで、二つ目は健康管理の患者様を増やすことです。

症状が改善した後は『姿勢管理（不良姿勢のリセット）』として、定期的にメンテナンスされることの大切さを患者様に説明してください。

『施術効果の視覚化』

姿勢の問題は時間をかけて、知らず知らずのうちに生じてくることを理解していただくことで、「計画的な管理」の重要性を高められ、関心しっかり持っていただくと、健康管理の施術として「定期的なメンテナンス」を受けていただけるようになりますので、たとえ初検日に比較をしない場合でも、初検日の施術前の姿勢は必ず撮影して保存しておいてください。

初検時の施術前の姿勢画像と、数回後に症状が改善してきたタイミングにおける施術後の姿勢画像とを比較して、施術を継続した効果を説明すると、健康管理の大切さを深く理解していただけます。

来院されたときの症状がほぼ軽減してきたタイミングで、定期的な「姿勢チェック（メンテナンス）」を提案してあげてください。

練習用の操作フローチャートを用意していますのでご活用ください。



フローチャート⑪ : [練習用－サンプル画像を使用した合成比較の iPad 操作](#)

フローチャート⑫ : [患者様への説明は「合成比較（簡単合成機能）」を行います。](#)

フローチャート⑬ : [資料として 2 枚の画像を並列評価する場合は、並列比較機能を行います。](#)

〈姿勢分析機能の紹介動画〉

動画 : [姿勢分析機能（撮影 → 合成比較 → モニタ → 並列比較）](#) (2:51)

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

[\(3\)【検査操作 : operation kind】に移動](#)

[過去に保存した画像の検索方法](#)

[\(4\)【施術操作 : operation kind】に移動](#)

【3】-(3)-6:-①. 姿勢評価の方法

1. 合成比較

ほとんどの比較は合成比較を行います。姿勢画像を所定のマットや三脚を使用して撮影しておけば、**簡単合成機能**を使って、簡単に合成比較が行いやすいような仕様になっています。

通常は、前面か背面のいずれかと、左右側面のいずれかの2方向を見てもらいますが、時間の都合で施術前に姿勢の悪かった面だけを見てもらうこともあります。

並列比較ではわかりにくいわずかな変化であっても、合成比較はとも変化が見やすくなります。

合成比較を見ていただく時、施術前の姿勢は健康管理をしなかった**悪い未来**として、施術後の姿勢は健康管理（姿勢リセット）をしていった**未来の良い状態**として説明すると、定期的な健康管理の重要性を深く理解していただけます。

また、合成比較を説明している iPad の画面は、iPad に搭載している画面収録という機能で画面を収録できます。収録した動画は iPad に保存されるので、LINE などですべて送ってあげると、その動画がきっかけとなり、紹介をしていただけることがあります。

2. 並列比較

姿勢画像を並べて評価する場合は、並列比較機能を使用してください。

【3】-(3)-6:-②. 姿勢分析を実施するタイミング

1. 初診時 または 症状半減時

基本的には初検時の施術前後の姿勢を比較評価して、2回目以降の最適なメニューや計画的な施術を提案します。

ただし、急性症状が強すぎる時は、初検時は施術前の姿勢だけを撮影しておき、数回後症状が半減してきた時に施術後の姿勢を撮影し、初検時の施術前の姿勢画像と比較評価します。

2. 症状がほぼ消失してきた時

症状がほぼ消失してきた時も、健康管理を目的とした定期的な施術の重要性を納得していただくために行います。比較する画像は、評価する当日の施術前後の姿勢を比較することが多いですが、初検時の施術前と説明当日の施術後を比較することもあります。

【3】-(3)-6:-③. 姿勢評価前後に定期的な姿勢管理の重要性を伝えるテクニック

特に合成比較を評価した直後は、大腿部（股関節）の捻転による体幹の回旋の動きチェックを行うようにしています。

少しの体の捻じれ（不良姿勢）でも、体の動きに影響していることを体感していただくと、姿勢管理（健康管理の施術）の重要性を理解してもらいやすくなります。

〈初検時は小指を使った頸部の連動チェックを 検査前 にしてあげてください〉

小指チェック抜粋動画（T）：[小指チェックの方法](#)（2:49）

導入後に詳しく説明させていただきます。

〈手首、距骨、大腿部を使った連動チェック〉

姿勢評価直後に「大腿部（股関節）の回旋チェック」をしておくことは重要です。

基本動画（R）：小指チェック・距骨チェックなどの実習（10:49）

※7:30 から大腿部のチェックを説明しています。

練習動画（R）：リバースの距骨調整から小指・手首・大腿チェック（25:33）

【3】-(3)-6:-④. 姿勢撮影 シャッターをきるタイミング

撮影のためにマットに立ってもらった直後は、体が前後にわずかに揺れています。

特に**側面の姿勢撮影**では、シャッターを押すタイミングによって、施術前の画像よりも施術後の画像が少し傾斜気味な画像になることがあるので、シャッターを押すタイミングには注意してください。

施術後の側面撮影は、体の揺れが安定してから、できるだけ綺麗な状態で撮影してください。

そして、必ず施術の前後を判別できるカードを映り込ませて撮り、**撮影順は、正面 → 左側面 → 右側面 → 背面 の順で撮影**しておかれると、システムへのアップロード（保存）がしやすくなりますので、撮影ルーティンはいつも同じにしてください。

動画（TR）：[姿勢撮影シーン](#)（0:39）

動画（TR）：[シートの設置シーン](#)（3:42）

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に戻る](#)

【3】-(3)-6:-⑤. 撮影と評価で使うフローチャートの選び方

操作フローは、検査チャートと施術チャートを組み合わせて参照します。

骨格調整による姿勢矯正の施術の流れを例に、チャートの選び方を説明します。

〈チャートの選び方〉

【1種目】まず「検査チャート」から、【初検用】②か、【再来用】④を選択します。

↓

【2種目】次に「施術チャート」から、施術方法によって⑦か、⑧のいずれかを選択します。

↓

【3種目】撮影した姿勢画像の比較操作は、⑫（合成比較）か、⑬（並列比較）を選択してください。

↓

【4種目】患者様に合成比較の収録動画を配信するときの操作は、配信チャートの⑩を参照します。

※姿勢撮影に専用の端末を使用された時の端末用チャートは、1種目のチャートで②を選択した場合の姿勢撮影箇所では、撮影端末用チャートとして【初検用】チャート⑤を使用し、1種目に④を選択した場合の撮影専用端末の操作フローチャートは、【再来用】⑥を使用してください。

※iPadのシリーズによって撮影する画像の仕様（広角度やサイズ具合など）が異なるので、異なるiPad複数台で利用されている場合、折角撮影した画像でも簡単合成比較が行いにくくなりますので、院内で撮影する端末は常に同じシリーズのiPadを使用してください。

※患者様の新規登録方法や検索方法は、基本チャートの⑱か⑲を参照してください。

操作の種類	チャート No	内容
検査 フローチャート	2	【初検用】基本フローチャート（姿勢分析あり）
	4	【再来用】基本フローチャート（姿勢分析あり）
	5	【初検用】姿勢撮影専用フローチャート 施術前の姿勢撮影、施術後の姿勢撮影の操作説明
	6	【再来用】姿勢撮影専用フローチャート 施術前の姿勢撮影、施術後の姿勢撮影の操作説明
施術 フローチャート	7	「骨格調整、距骨テープ」 アクチベータとドロップを使用する操作説明
	8	「緊張緩和〈FA-3〉+ 骨格調整」 前半と仕上げの2回に分けて行う操作説明
	12	「簡単合成比較から比較動画収録」 簡単合成と比較画面の動画収録の操作説明
	13	「姿勢画像の並列比較」 姿勢画像 並列比較の操作説明

配信 フローチャート	16	「合成比較収録動画配信」 施術後の収録動画配信の操作説明
基本	18	患者 ID 入力画面で患者様を登録・検索する方法
	19	患者マスタ画面で患者様を登録・編集・検索する方法

【3】-(3)-6:-⑥. 合成比較の画面収録と収録動画の配布方法

姿勢評価を行うときは、合成比較を説明している iPad 画面を収録して、後から LINE で送ってあげると口コミ（紹介）のきっかけになります。

フローチャート⑫：[合成比較評価と iPad 画面収録の操作](#)

フローチャート⑬：[合成比較収録動画配信](#)

動画：[合成評価をするときに iPad 画面を収録する方法](#) (5:28)

【3】-(3)-6:-⑦. 動画を送る時に添付する画像

画像：[合成比較動画を患者様に送る際の添付画像](#)

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に戻る](#)

[\(5\)【配信操作：operation kind】](#)

【3】-(3)-6:-⑧. 過去に保存した画像の検索方法

- チャート：⑭. 保存画像の検索方法と検索エリアのボタンの操作

詳細版 PDF：[「\(24\) 保存画像の検索方法と検索エリアのボタンの操作 詳細版」](#)

※施術、受付 ID のいずれでも操作可

[目次に戻る](#)

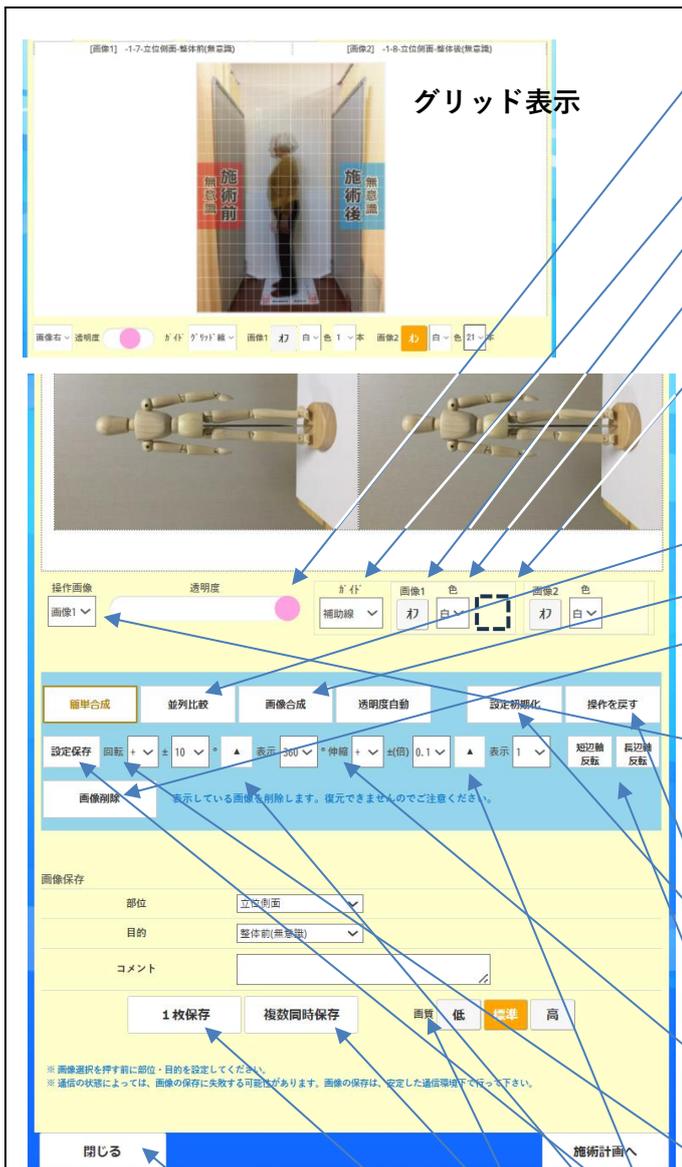
[フローチャート一覧に移動](#)

[姿勢分析の詳細説明に移動](#)

[\(4\)【施術操作：operation kind】に移動](#)

[3] - (3)-6:-⑨. 画像保存画面の各ボタン機能

画面	詳細
 <p>The screenshot shows the 'Image Saving' interface. At the top, there are buttons for 'カウンセリング' (Counseling), '一覧' (List), '次へ' (Next), '戻る' (Back), and '表示数' (Number of items to display, set to 35). Below this is a search filter section with '画像検索項目の表示' (Display search items), '基準画像' (Reference image), '含む' (Include), and '画像のビュー' (Image view, set to 'なし'). The patient ID is '04' and the name is 'デモ04'. A table lists image details with columns for '撮影日' (Date), '撮影番号' (Image number), '撮影番号' (Image number), '部位' (Part), '目的' (Purpose), 'コメント' (Comment), '表示' (Display), '基準' (Reference), and 'C'. Below the table are buttons for '基準でない画像全削除' (Delete all non-reference images), '画像1解除' (Release image 1), '画像2解除' (Release image 2), '全解除' (Release all), and '登録' (Register). At the bottom, there are buttons for 'ロック' (Lock), 'エリア内移動' (Move within area), '表示部の拡大' (Enlarge display area), and '表示部の縮小' (Shrink display area). A preview window shows two images of a mannequin.</p>	<p>下記は画像を微調整するボタンですが、姿勢画像は専用のシートや三脚を使用して同じ時要件で撮影しているため、普段使用することは殆どありません</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリング：通常とカウンセリングの表示モード切替 ・ 表示数：一覧の表示数を設定します ・ 画像検索項目の表示：保存画像の検索条件画面を表示します ※画面を参照し条件を設定します ・ 画像プレビュー：「あり」設定では撮影番号が青字に変わり、番号を押すとプレビューできますが、保存画像が多い時は画像の読み込みに時間が掛かるので、普段は「なし」のままにします ・ 全表示：表示部に前画像一覧を表示します ・ C：選択するとカウンセリングの画像比較画面に表示します ・ 基準：選択すると常に上位に表示されます ・ 表示：先に選択（左画像1）、後に選択（右画像2） ・ 基準画像：基準画像の一覧への表示有無 ・ 登録：部位・目的・コメントを編集した後、上書きします ・ 基準でない画像全削除：基準に選択していない画像一覧の画像を同時に削除します ※任意画像の削除は次頁参照 ・ 全解除：画像一覧の画像で、基準を選択していない画像を同時に削除します ・ 表示部の拡大・縮小：表示部の拡大縮小 ・ エリア内移動：表示エリア外に移動した場合に押す ・ ロック：2つの画像に同時に移動・編集する場合に押す



右記の画像を微調整するボタンですが、
姿勢画像は専用シートや三脚を使用して
同じ条件で撮影しているので、普段使用
することはありません

- ・透明度スライダー●：左端 100% ⇄ 右端 0%
- ・透明度自動：自動でスライダー●を動かします
- ・ガイド：補助線とグリッド線を切り替えます
- ・画像1：ガイド表示のオンオフです
- ・色：ガイドの色を変えられます
患者様の着衣の色に応じて見やすい色に変えます
- ・本数：ガイド線の縦横の数 ※同数
※グリッド線は奇数を設定すると画像中央線になる
※補助線は縦横 1 本の十字のみです
- ・並列比較：表示部中央線を表示し並列比較に使用
- ・画像合成：手動操作で合成比較するとき使用
- ・画像削除：表示部に表示している画像を削除します
- ・操作画像：画像の透明度・回転・伸縮を行う画像の指定
- ・操作を戻す：一つ前の操作状態に戻す
- ・設定初期化：一覧から選択し、表示直後の状態に戻る
- ・短編、長辺：選択画像を反転します
- ・伸縮：+-と度数を設定し、▲を押すと選択画像に
実行します
- ・回転：+-と度数を設定し、▲を押すと選択画像に
実行します
- ・設定保存：1枚目の回転・伸縮設定を2枚目に行う時に使用
- ・回転・伸縮：+-と度数を設定し、▲を押すと選択画像に
実行します
- ・複数同時保存：姿勢撮影の際は複数同時保存で行います
- ・1枚保存：姿勢画像以外を1枚ずつ撮影・保存するとき
には、部位・目的などを入力の上使用します
- ・画質：標準のまま使用ください
- ・閉じる：画面を閉じます

[目次に戻る](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(3)-6:-⑩. 保存画像を削除して、保存可能枚数に余裕を作る方法

【3】-(3)-6:-⑪. 患者一覧 CSV 機能の使い方（画像最終保存日を基準とした患者様検索）

患者様管理画面の**患者一覧 CSV**は、**最終画像保存日を基準に**患者様を検索し、CSV 資料（一覧）を作成します。

【3】-(3)-6:-⑫. 姿勢を綺麗に整えるポイント

姿勢撮影をする時は、普段の筋肉施術の後に撮影するよりも、緊張を緩和させる施術を行った直後に撮影する方が、綺麗に整った姿勢を評価しやすくなります。（緊張緩和・アクチベータ・テープなど）

理由は、普段の施術（イーファス）の後に撮影すると、対称関係や面（軸）を意図的に調整（変化）しているの、施術として問題ないのですが、直後の筋肉や関節の変化（反応）によっては、姿勢が綺麗に整わない場合があります。

また一般的に刺激が強いほど体が緊張（変化）しやすくなり、綺麗に見えていただけないことがありますので、いかに**緊張を緩和**させながら、**安定性を高める**かがポイントです。

10分程度で4方向とも、ほぼ100%綺麗に整えられています。

始めのうち4方向の内、綺麗に整う面と、整わない面があることが多いのですが、症状が良くなってくると、4方向のすべてが綺麗に整うようになってきます。

また、4方向で整う場合は、施術内容があっている一つの判断材料にもなります。

[目次に戻る](#)

【3】-(4)【施術操作 : operation kind】

- チャート : ⑦.施術フローチャート (骨格調整、距骨テープ) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(7\) 施術フローチャート \(骨格調整、距骨テープ\) 詳細版](#)」

[骨格施術の詳細説明に移動](#)

[骨格調整による姿勢分析の参考資料 \(R\)](#)

- チャート : ⑧.施術フローチャート (緊張緩和 〈FA-3〉 + 骨格調整) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(8\) 施術フローチャート \(緊張緩和 〈FA-3〉 + 骨格調整\) 詳細版](#)」

[緊張緩和の詳細説明に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術に移動](#)

- チャート : ⑨.施術フローチャート (緊張緩和 〈FA-3〉 + 骨格調整 + 筋肉調整) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(9\) 施術フローチャート \(緊張緩和 〈FA-3〉 + 骨格調整 + 筋肉調整\) 詳細版](#)」

[筋肉施術の詳細説明に移動](#)

[対象筋を絞り込む方法 \(FA-2\)](#)

- チャート : ⑩.施術フローチャート (テープ施術) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(10\) 施術フローチャート \(テープ施術\) 詳細版](#)」

[テープ施術の詳細説明に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術](#)

- チャート : ⑪.施術フローチャート (ストレッチ施術) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(11\) 施術フローチャート \(ストレッチ施術\) 詳細版](#)」

[ストレッチの詳細説明に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術](#)

- チャート : ⑫.施術フローチャート (簡単合成比較から比較画面収録) : 詳細版

詳細版 PDF : 「[\(12\) 施術フローチャート \(簡単合成比較から比較画面収録\) 詳細版](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

[合成比較の詳細説明に移動](#)

[緊張緩和 \(FA-3\) 施術の詳細](#)

- チャート：⑬.施術フローチャート（姿勢画像の並列比較）：詳細版

詳細版 PDF：「[\(13\) 施術フローチャート（姿勢画像の並列比較）詳細版](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

[姿勢分析機能の詳細説明に移動](#)

[骨格調整施術の詳細に移動](#)

〔施術チャートに関連する詳細説明〕

【3】-(4)-1: 緊張緩和（FA-3）施術の詳細 ※自律神経調整

緊張緩和法（FA-3）は、神経-筋肉の過緊張が高く、痛み症状が強いほど有効です。

イーファスの施術が全身的な施術であるため、局所の問題が大きい急性痛などのケースで、効果を出しにくい場合がありますが、そうした時にはまず緊張緩和法をしてあげるといいでしょう。

ほぼすべての施術の仕上げとして、最後に行うようにしており、

症状や体の緊張が強い場合は、施術の初めと仕上げで2回行います。（約3～5分/回）

腹部への緊張緩和は、内臓機能の調整にもなります。

まず、以下の施術動画からご覧ください

施術動画3は利用者様への施術で、解説しながら施術しています。

はじめのうちは、施術の流れや説明など、完全に真似て行っていただくと効果が得やすいと思います。

施術動画1（TR）：[患者施術1〈腰痛〉](#)（18:29） ※緊張緩和と骨盤ケア

施術動画2（TR）：[患者施術2〈頸肩部痛〉](#)（21:26） ※緊張緩和と骨盤ケアとアクチベータ

導入後に詳しく説明させていただきます。

施術動画3（R）：[左肩外転時胸鎖関節痛](#)（34:32）

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】 - (4)-1:-①. 新規導入時の説明動画

練習動画 (R) : 緊張緩和〈解説+練習〉(21:34)

施術動画 (R) : 緊張緩和〈実演〉(11:15)

【3】 - (4)-1:-②. 膝倒しの結果に対する緊張緩和の施療部位

- ・ 右倒しがしにくい時 → 左腰+左足底+右肩部+頭頸部+腹部
- ・ 左倒しがしにくい時 → 右腰+右足底+左肩部+頭頸部+腹部
- ・ 両方向ともしにくい時 → 両腰+両足底+両肩部+頭頸部+腹部

動画 (TR) : 膝を倒しにくい時の緊張緩和 1 (2:12)

動画 (TR) : 膝を倒しにくい時の緊張緩和 2 (3:01)

【3】 - (4)-1:-③. 緊張緩和を公開した時の講義資料

FA-3 を主としてイーファス施術と組み合わせた流れになります。

PDF (R) : 「FA-3 施術版〈spiritual-body-treatment〉(3.0)」

※PDF 資料とあわせて以下の動画をご覧ください

〈全編〉動画 (R) : 施術版 FA-3 講義全体 (1:18:13)

〈抜粋動画 (R)〉

動画 : FA-3 P.2-5 「提案するテクニック」(28:14)

動画 : FA-3 P.6-7 「初診全体の流れ」(12:55)

動画 : FA-3 P.8 「2 回目全体の流れ」(5:33)

動画 : FA-3 P.9-10 「3 回全体の流れ」(8:43)

動画 : FA-3 P.11-15 「問診・説明の補足」(22:50)

まず緊張が亢進していること、緊張を緩和することが重要であることを体感していただきましょう。

動画 (R) : 座学の前に (5:13)

動画 (R) : [施術動画-1](#) (54:17) ※FA-3+アクチベータ+ブロック・姿勢評価あり・**運動**機能検査

動画 (R) : [施術動画-2](#) (43:55) ※FA-3+アクチベータ+ブロック・姿勢評価あり・**関節**運動検査

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(4)-1:-④. 緊張緩和の練習風景

施術イメージ作りに役立ててください。

解説+施術動画 (R) : 2021年2月13日広島〈膝の痛み〉(56:08)

※練習後しばらくできなかった正座ができるようになりました。

練習動画 (R) : 2021年2月15日兵庫〈腹部・右肩甲部痛〉(1:01:31)

※お一人目はしばらく続いていた腹部の痛みが楽になります。

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

【3】-(4)-2: 骨格調整施術の詳細

骨格調整画面にはリバース画面（赤画面）と、ダイレクト画面（青画面）があり、施術方法における体への作用によって使い分け、ダイレクト画面とリバース画面の**切替ボタン**は下部に配置しています。



骨格調整図に対する施術手法としては、以下に6種類を説明していますので、それぞれの利点・欠点をまとめた下表を参考にして、患者様のお体の状態や症状によって、最適な組み合わせで施療してください。

参考までに、当院の骨格調整の基本施術は、アクチベータとドロップで行うことが多く、動きにくさが残存し、かつ、かぶれにくい方には距骨テープを貼り、セルフケアとして骨盤ケアをセルフケア視聴画面で閲覧していただくようにすることが多いです。

またドロップが苦手な方や高齢者には、ドロップの代わりに徒手で調整する場合があります。そして三角ブロックは、緊張が強すぎる方に、施術の初めに緊張を緩める目的で少し長めに受けていただくような使い方をすることがあります。

手法	参照画面	特徴（利点・欠点）
アクチベータ	リバース画面	<p>〈利点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト刺激で安全性が高く、対象が広い、高齢者まで幅広く使用できる ・反射を利用した施術で、「動きをつける」と言うよりも「動きやすくする」という目的に適している

		<p><欠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬い関節には作用として弱い時がある
ポータブルドロップD	ダイレクト画面	<p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬い関節にも積極的に動きをつけやすい <p><欠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者など、骨粗鬆気味な患者様には使いにくい ・私どもの行い方(衝撃)は、比較的優しいものの、矯正が苦手な方には不向きである ・関節が緩い場合は、傷める可能性がある
徒手	ダイレクト画面	<p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に合わせた加減がしやすい <p><欠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・触察加減にコツが必要になる
三角ブロック	三角ブロック画面	<p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・私どもの行い方は(挿入)優しく、ソフトなので、対象が広く、高齢者まで幅広く使用できる ・他の治療器と併療することもできる ※手が掛からないプラスαを作りやすい <p><欠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬い関節には効果が出しにくい
距骨テープ (骨格調整テープ)	リバーズ画面	<p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施術効果の安定(定着)として簡単にプラスαしやすい <p><欠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぶれる可能性がある
骨盤ケア	骨盤ケア画面	<p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイレクト作用の自宅ケアとして有効

【3】-(4)-2:-①. アクチベータによるリバース施術

リバース画面（赤）の矢印には、アクチベータによる調整を行います。

アクチベータによる調整は、調整刺激に対する体の反射を利用して、体には矢印と逆方向の動きを誘導する目的で施術します。徒手で行うよりも、コツが少ないので、直ぐに効果を得られます。

〈調整方法：調整肢位、調整イメージ、タイミングと方法〉

〈調整肢位〉

肢位は臥位でも構いませんし、座位でも構いません。

〈調整イメージ〉

骨盤図は、仙腸関節への調整をイメージしてください。

脊柱図は、椎弓へ作用させて、椎体を回旋させるようにイメージしてください。

※棘突起に直接アプローチしないようにしてください。

〈骨盤図へのアプローチのタイミングと方法〉

アプローチするタイミングは、患者様に少し大きめに吸気していただき、呼気後半から息を吐ききるまでの間です。

1. アプローチするポイントにアクチベータを持っていない手の親指を軽く接触。
2. 親指にアクチベータを接地、図の方向にアクチベータの方向を合わせます。
3. 患者に少し大きめの吸気を誘導し、呼気時後半に2～3回（パンパン）連続してアプローチします。
3.は2～3セット行ってください。動きが悪そうな関節の矢印は3セットするようにしています。

※通常座位で行うことが多く、坐骨の頭方向への矢印は、対側の腸骨を下方向へアプローチします。

※順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。

〈脊柱図へのアプローチのタイミングと方法〉

アプローチするタイミングは、患者様に少し大きめに吸気していただき、呼気後半から息を吐ききるまでの間です。また上位から下位の矢印を一息の間に連続して行います。

1. アプローチする上位の椎弓にアクチベータを持っていない手の親指を軽く接触。
2. 親指にアクチベータを接地、図の方向にアクチベータの方向を合わせます。
3. 患者に少し大きめの吸気を誘導し、呼気時後半に、1つの椎弓に対して1回ずつ、下位の椎弓へ順番に連続してアプローチします。
3.は2~3セット行ってください。動きが悪そうな場合は3セットするようにしています。

※棘突起へは直接アプローチしないようにしてください。

※アプローチするとき、一つ一つの椎弓にしっかり設置しようとしなくても構いません。

決して頭部を揺らさないように注意してください。イメージが強くなると、実際に指を椎弓に接地していなくても効果を得られるようになります。

※順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。

〈矢印方向による運動面作用〉

- ・ 腸骨と仙骨の前後方向の矢印は、主に矢状面と水平面に作用します。
- ・ 腸骨の上下方向への矢印は、主に前額面に作用します。
座位で行う場合に、坐骨の上方向の矢印には、反対側の腸骨を上から下に調整してください。
- ・ 赤色矢印は黄色矢印よりも優先度が高いとして選出されていますが、通常は区別せずに扱います。



基本動画 (TR) : [アクチベータとポータブル D の調整方法](#) (10:35)

導入後に詳しく説明させていただきます。

練習動画 (TR) : アクチベータとポータブル D の練習〈導入説明〉(26:16)

復習動画 (R) : アクチベータによる骨盤検査 (詳細) (7:37) ※**施術力を高める秘訣より抜粋**

施術動画 : [施術動画-1〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (22:19)

施術動画 : [施術動画-2〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (11:54)

施術動画 : [施術動画-3〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (19:45)

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[\(4\)【施術操作 : operation kind】](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術](#)

【3】-(4)-2:-②. ドロップによるダイレクト施術

ダイレクト画面 (青) では、矢印の方向へ直接動きやすくなるように矯正します。徒手もしくはポータブル D やドロップベッドで行います。

※徒手でも十分な効果が得られますが、患者様の体感・印象を考慮して、当院ではポータブル D で調整しています。



〈ポータブルドロップ D の紹介〉

ドロップベッドをお持ちでない場合は、Amazon などで「ポータブルドロップ」と検索すれば、数種類の商品があります。

右上図は 7 万円弱のもので、両側にレバーがついているタイプになります。



右下図は3万円台のもので、レバーが片側のみのタイプになります
レバーは両側タイプの方が使いやすいですが、片側タイプでも
使えないことはありません。



※調べられる時点で価格が変動している場合があります。

〈ポータブル D の調整方法〉

骨盤図には伏臥位のみで行います。

脊柱図には、胸腰椎部は伏臥位で行いますが、頸椎部の矢印には行いません。

〈準備〉

まず準備として、最小の圧でポータブル台が落ちるように横のレバーで調整してください。

患者様が台に乗ると体重で簡単に落ちてしまうような「ゆるゆるの状態」に調整します。

↓

患者様の臍の位置をポータブル台の上端に合わせるように乗ってもらいます。

※患者様が台に乗られたら、レバーを使って1度台を落としてみて、違和感や痛みがないことを確認してください。

〈アプローチの手順と落とすタイミング〉

1. 患者がポータブル台に乗っている状態で、術者がレバーを引いて、台を上げ、レバーを引きあげたまま台が落ちないように保持します。
2. レバーを保持していない手根部を矢印のポイントに接触させ、矢印の方向へ2ミリ動かすようなわずかな圧をかけた状態を保持します。
3. 患者に少し大きく吸気してもらうように誘導してください。
4. 呼気を吐ききる手前のタイミングで、保持していたレバーを急に離し、台を落としてください。

※胸腰椎部は手根部全体でコンタクトし、アプローチは、上部・中部・下部の3エリアに分けて行います。

※基本2セット行いますが、動きが悪そうな場合は3セット続けて行うようにしています。

※関節の動きを鮮明にイメージすればするほど効果が得られます。

※順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。

〈矢印方向による運動面作用〉

- ・腸骨と仙骨の前後方向の矢印は、主に矢状面と水平面に作用します。
- ・腸骨の上下方向への矢印は、主に前額面に作用します。
- ・赤色矢印は黄色矢印よりも優先度が高いとして選出されていますが、通常は区別せずに扱います。
- ・順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。



動画：[ポータブルDの使い方](#) (6:19)

動画：[施術動画-1〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (22:19)

動画：[施術動画-2〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (11:54)

動画：[施術動画-3〈骨格調整と姿勢分析〉](#) (19:45)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[目次に戻る](#)

【3】-(4)-2:-③. 徒手によるダイレクト施術

骨盤図には仰臥位と伏臥位で行い。

脊柱図には伏臥位、頸椎部には座位か仰臥位で行います。

動画を参考にしてください。

1. 矢印のポイントにコンタクト手を接触。
2. 他方の手を重ね、軽く圧をかけて軟部組織の遊びをとる。
3. 患者の呼気に合わせながら、矢印方向へ2ミリ動かすように、ゆっくり圧をかけます。
4. 2ミリ動かしたところで圧をかけたまま3秒ほど完全固定してください。
5. 患者の吸気に合わせて圧をゆっくりと抜いてください。
6. コンタクトした手は、反動が生じないように、そっと離してください。

※基本2セット行いますが、動きが悪そうな場合は3セット連続で行うようにしています。

※関節の動きを鮮明にイメージすればするほど効果が得られます。

※順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。

〈矢印方向による運動面作用〉

- ・ 腸骨と仙骨の前後方向の矢印は、主に矢状面と水平面に作用します。
- ・ 腸骨の上下方向への矢印は、主に前額面に作用します。
- ・ 赤色矢印は黄色矢印よりも優先度が高いとして選出されていますが、通常は区別せずに扱います。
- ・ 順番に決まりはありませんが、骨盤 → 脊柱で行ってください。

動画 (TR) : [骨格調整 骨格模型を使った仙腸関節の調整 \(28:41\)](#)

動画 (TR) : [E F A S 骨格 人体を使った仙腸関節 \(18:20\)](#)

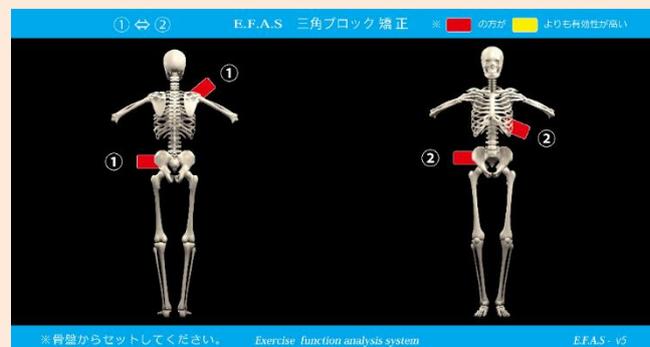
[目次に戻る](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(4)-2:-④. 三角ブロックによる施術

〈利用可能プラン : SP・L・W 版〉

骨格調整画面の右下 [三角ブロック] を押すと、調整画面を表示します。



〈三角ブロック矯正の注意点〉

〈施術の仕上げとしてブロックをする方法〉

〈三角ブロックの紹介〉

高田ベット社製 **鋏型三角ブロック (大)**

製品番号 : TB-1076-07 定価 ¥4,576 (税別)

[楽天市場の販売ページはこちら](#)

[目次に戻る](#)

【3】-(4)-2:-⑤. 伸縮テープによる施術：距骨テープ（骨格調整テープ）

骨格調整図に基づいて足関節へ伸縮テープを貼る方法です。

動きには即効的な効果が得られやすく、施術で改善した体の状態を定着させる効果が期待できます。また従来の施術の最後に、プラスαする方法として提案しやすいと思います。

骨盤検査の設定が完了したら、[骨格調整] ボタンを押してください。

リバース画面（赤）を参考にテープを貼ります。

〈伸縮テープの貼り方〉

しっかり伸長させて貼る場合は、テープ自体の短縮力によってはがれにくくするために、テープを少し長めにし、両端の伸張させない部分も長めにしてください。



※しっかり効かせたいときは、1枚目に重ねて2枚目を貼ってください。（重ね貼り）

〈テープの貼っておく時間〉

かぶれないように注意して、通常は貼った当日に剥がすように指導します。

1時間程度貼れば、テープを剥がしても効果は続くので、かぶれやすい方は早めに剥がしてもらい、剥がしたときは、糊成分を洗い流すように指導しています。

症状により数日続けて貼ってもらう時は、写メを撮ってもらい、数日分のテープを渡します。

※伸縮性が長持ちするテープほど効果は持続しますので、いろいろとテープは試しましたが、コスト面と伸縮力の持続性を考慮して、当院ではトワテックのキネシオロジーテープを採用しています。

テープは貼って数秒で効果を確認できますので、動作検査で動きにくかった動きの改善具合を確認してください。動きにくかった検証動作は画面上部に表示しています。

〈第1テープ：リバーズ画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）

仰臥図 腸骨を前方から後方へ調整する矢印側の足部へ貼る

※腸骨を前方から後方への矢印がない場合は、仙骨を前方に調整する側の足関節でも良い。

肢位：座位又は仰臥位で足部は自然な肢位

貼り方：第5中足骨基底部の外側底面から、足部前面を通過して内果に向けて貼付する。

※テープの長さは成人男性で12～20 cm程度。

※底面は10 mm程度、被れにくいように最低限の長さにする。

〈第2テープ：リバーズ画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）

座位図 腸骨を下方に調整する矢印側の足部へ貼る。

※腸骨下方矢印がない場合、坐骨を頭方へ調整する矢印の反対側の足関節になりますが、効果はやや小さくなります。

肢位：座位又は仰臥位で足部は自然な肢位

貼り方：外果直下の外側底面から、外果をまたぐように貼付する。

※テープの長さは成人男性で10 cm程度。

※底面は10 mm程度、被れにくいように最低限の長さにする。

〈第3テープ：リバーズ画面（赤画面）〉 貼り方（詳細）

仰臥図 腸骨を後方から前方へ調整する矢印側の足部へ貼る

肢位：伏臥位でつま先を立ててアキレス腱を伸ばしてもらった肢位

貼り方：踵骨底面から、足部後面を通過して下腿後面を上方に貼付する。

※テープの長さは成人男性で20 cm程度

↓

上記の方法を参考に貼り終わりましたら、**検証動作を確認し、動きが改善しているかをチェック**してください。

※テープは貼った直後よりも、少し時間が経つとテープが馴染むので、さらに効果を体感されます。

〈効果が少ない時の対応〉 二重貼り

- ・ 矢状面や水平面の改善が少ない時は、第1と第3テープを重ね貼りします。
- ・ 前額面の改善が少ない時は、第2テープを重ね貼りします。

重ね貼りした直後も検証動作の改善をチェックしてください。

ほぼ動きの改善を患者様も体感されるので、テープの効果を実感していただけます。

PDF : [「骨格調整テープ \(3.0\)」](#)

動画 : [骨格調整テープ 第1,2テープ \[講義\]](#) (27:19)

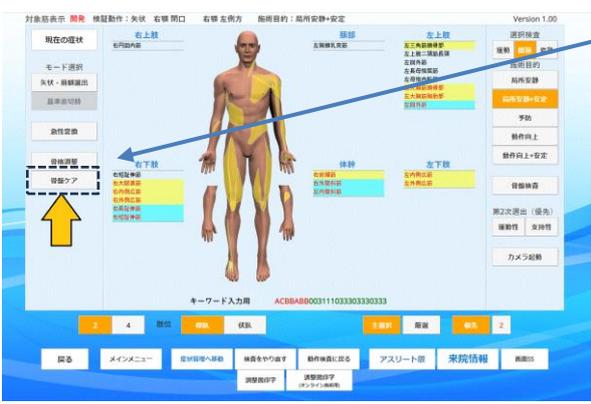
動画 : [骨格調整テープ 第1,2テープ \[実技\]](#) (19:51)

[目次に戻る](#) [導入初期にお勧めのイーファス施術の説明に移動](#)

【3】 -(4)-2:-⑥. 骨盤ケアの操作フローチャート（患者様に指導する流れ）

骨格調整図を基にして、骨盤と脊柱のセルフケア資料図を作成しています。

帰宅してから、閲覧していただけるように、セルフケア配信画面でセットすることができますので、先生が対面で指示しながら行う流れを説明します。

骨盤ケア画面の操作（施術者が誘導して行う場合）	
画面	操作
	<ul style="list-style-type: none"> 対象筋表示画面で、骨盤ケア を押す
	<ul style="list-style-type: none"> 骨盤ケアの準備として、初めに骨盤ケアの準備という画面が開きますので、 患者様に骨盤の高さを確認していただき、座り方も説明してください
	<ul style="list-style-type: none"> 次へを押す 施術目的に応じた骨盤ケアの実施画面が表示されます 施術の中で行っていただく時は、 検証動作のうちまず水平面のチェック（左図）から行い、その次に前額面のチェック（右図）を行います ※それぞれチェックする直前に検証動作をしていただき、必ず動きにくさを体感してもらってから行ってください。そして、最後に動きが改善していることを確認してもらいます



初めに左図の調整から行います

水平面の調整になります

↓

- ・左側の図を参考に、手を密着させたままで、**深呼吸3回**をしていただきます

↓

施術の中で行っていただく時は、

- ・検証動作の水平面の改善を確認してください

↓

次に右図の調整を行います

前額面の調整になります

- ・右側の図を参考に、手を密着させたままで、**深呼吸3回**をしていただきます

↓

施術の中で行っていただく時は、

- ・検証動作の前額面の改善を確認してください

↓

- ・最後に仕上げとして、定着を目的に「くるりんぱ」を行っていただきます

手の組み方は、骨盤ケア画面の下に表示しています

■「左手回内 → 右手上組み」の場合

- ・まず左手を前方に伸ばし、手を回内させる
- ・右手を前方に伸ばし、左手の上から重ねて手を組みます
- ・手を組んだまま、下手前から上に回して腕を前方に伸ばします。腕は最大に伸ばした状態で3秒保持する

■「右手回内 → 左手上組み」の場合

- ・まず右手を前方に伸ばし、手を回内させる
- ・左手を前方に伸ばし、右手の上から重ねて手を組みます
- ・手を組んだまま、下手前から上に回して腕を前方に伸ばします。腕は最大に伸ばした状態で3秒保持する

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

導入後に詳しく説明させていただきます。

【3】-(4)-2:-⑦. 骨格調整による姿勢分析の施術参考資料 (R)

■骨格調整による姿勢矯正の成功のポイント

以下は、骨格調整と姿勢分析の施術メニューを患者様に提供する前の準備として解説した資料ですので参考にしてください。

PDF：「骨格調整 + 姿勢分析 成功のポイント 〈1.0〉」

動画：「骨格調整 + 姿勢分析」成功のポイント (1:18:54)

動画：利用者さんが患者さんに「骨格調整による姿勢矯正」を実施された感想 (8:36)

■骨格調整による姿勢分析の始め方

実際に始める時の具体的な方法について説明しました

PDF：「骨格調整による姿勢分析の始め方 〈詳細〉 (2.1)」

動画：骨格調整による姿勢分析の始め方 〈詳細〉 (43:07)

■骨格調整による姿勢矯正 提案前の最終確認

初めは「骨格調整による姿勢矯正」を他の施術方法と組み合わせることがあると思いますが、やがて症状が改善されると、メンテナンスとして「骨格調整による姿勢矯正」だけで受診されるケースが増やせますので、単体のメニューとしてもしっかり価格設定をしておかなければなりません

PDF：「骨格調整による姿勢矯正 提案前の最終確認 〈2.1〉」

動画：骨格調整による姿勢矯正 提案前の最終確認 (34:18)

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

[⑦.施術チャート（骨格調整）に移動](#)

[⑧.施術チャート（緊張緩和〈FA-3〉 + 骨格調整）に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術に移動](#)

【3】-(4)-3: 対象筋調整施術の詳細

対象筋への施術は、基本的に選出された筋肉を全体的に施術してください。特に全身性の問題が大きい時ほど、対象筋を広いエリアから全体的に施術される方が効果を得やすくなります。

時間に制限のある時でも、体幹部と下肢は施術していただいた方が、それぞれの筋肉の相互関係による相乗効果で効果が得やすくなります。

しかし、局所に炎症症状（特に自発痛や熱感）を認める場合は、対象筋として選出されていても、炎症部への施術は避けられて、それ以外の対象筋を重点に施術していただければ、遠隔的な効果を得られます。

なお、**動作痛が顕著な場合**には、以下に説明する方法で、より有効な対象筋を絞り込むことができる場合があります。

【3】-(4)-3:-①. 選出筋への FA 検査（First Aid）

FA 検査は、施術を開始する前に、選出筋に対して施術者の手指で施術作用を作り、検証動作や主訴に良い変化が現れるかどうかをチェックする検査方法です。事前に体の反応を見ることで、より効果のある施術部位を特定（絞り込む）していく方法です。

〈実際の操作〉

1. 選出筋に対して、実際に手指を軽く開いた状態で触察（タッチ）します。
2. こわばり（緊張反射）がないことを確認してください。
3. 手指を接触したまま、**指を閉じることで短縮作用**を作ります。
4. そのまま 2 秒固定してから、検証動作や主訴の変化を確認してください。

※手指を接着したままでは確認しにくい時は、離していただいても構いません。

より有効な選出筋であれば、検証動作や主訴に軽減する変化が見られます。

また、FA に慣れてくると、接着して確認するときに、接地部にフッと緩む変化を感じることがあり、患者様に尋ねなくても有効な対象筋であることが分かるようになります。

FA の際に強すぎる刺激や粗い触察（タッチ）になると、リアクション（緊張反射）が生じてしまい、正しい FA 検査になりませんので、反射を起こさないような軽い刺激（タッチ）で検査してください。なお慢性痛の場合や、そもそも動作痛のない症状には FA 検査は判別しにくいいため行いません。

〈対象筋を絞り込む方法 (FA-2)〉

選出筋の FA について説明している資料になりますので、時間のあるときにご覧ください。

※動画の中で骨盤検査はあまりしないと言っていますが、最近では動きにくさを認める時は、ほぼ行っています。動画収録当時は徒手で行っていましたが、アクチベータで行うようになってからは、簡単に検査が行いやすくなったこともそのきっかけです。

動画：[FA 検査 \(講義\) 京都フォローセミナー 2017 年 9 月](#) (26:15)

動画：[FA 検査 \(実技\) 京都フォローセミナー 2017 年 9 月](#) (37:29)

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[症状における各施術法の選択方法](#)

[\(4\)【施術操作 : operation kind】に移動](#)

【3】-(4)-3:-②. 前腕部と下腿部のグーパーテスト

選出された対象筋の中で、**前腕部と下腿部の筋肉に対して**、より**有効な筋肉を絞り込むときに行うテスト方法**です。

グーパーの動きで短縮位になる筋肉が対象筋になります。

強い力を入れて行わないようにしてください。

手指グーの動作は手関節を軽く掌屈させ、パー動作は手関節に軽く背屈を加え、足趾も同じように、グー動作は足関節を軽く底屈させ、パー動作は軽く背屈を加えると評価しやすくなります。

動画：[前腕部・下腿部の筋肉のグーパーテスト](#) (5:26)

【3】-(4)-3:-③. 体幹の安定性を高める筋肉と運動療法

腰部・股関節の軽い運動療法を行うと、安定性が高まるので姿勢が整いやすくなりますし、施術の最後に体の軸を安定させる目的で行うと良いです。

動画：[筋肉の滑走性を改善する運動](#) (14:21)

〈動画で行っているチェック動作〉

1. 膝倒し
2. お尻上げ（両方・片側）
3. 股関節外転・外旋（開排）
4. 股関節屈曲（腸腰筋）

[目次に戻る](#)

【3】-(4)-4: テープ施術の詳細：アスリート画面・テーピング選出

骨格調整テープ（距骨テープ）は骨格調整の観点から行うことに対して、テープ施術は筋肉の協調性の観点から実施するテーピング療法です。

特に**顕著な動作痛を認める時に有効な方法で、疼痛緩和や調整後の改善した状態を定着しやすくさせるのに有効**です。

いずれのテープも全身調整として有効ですが、どちらかと言えば、骨格調整の観点から行う距骨テープの方が効果を得やすいと思います。ただし、筋肉のスパズムが強い時はアスリート画面のテープ施術の方が良い結果を得られます。骨格系と筋肉系の影響度合いによって効果に差が出ると思いますが、迷う時は両方のテープを施療されてもいいと思います。

なお、FA（手指のタッチ（手当）による施術有効箇所の探索）において、テープが有効な筋肉は、手技（筋肉への触察）を行っても有効です。

また、相乗効果の観点から、1部位目の貼付後に効果が少なくても、2部位目へ貼付した後に効果が現れることも多く、また1枚目の貼付後に少し効果が少ないと感じられた時は、2枚目を重ね貼りすると顕著な効果が得られることがあります。

FAも初めのうちは少し慣れが必要ですが、慣れてくると効果を出しやすくなりますので、あまり結果に右往左往せずに積極的に行うようにしてください。

【3】-(4)-4:-①. テープ施術の目的と注意事項

テープは、「痛み（症状）の悪循環を止める」とか、「体を楽にして治療力が働きやすい状態にする」「良い動きのクセをつける」という目的で患者様には説明しています。

施術の最後に残存した症状に対して「少しでも楽になって帰ってほしい」という時に有効な手段だと思しますので、症状が強い時は、患者様にプラスαの施術として提案されることをお勧めします。

補足ですが、慢性症状の方の場合、筋肉の伸縮性や関節の動き自体が悪くなっていることが考えられますので、そうした時にテープで動きやすくすることによって、筋肉や関節に対するリハビリ的な目的も期待できます。

その他体の状態が良い時であれば、テープを貼ることで、より動きやすくなるので、パフォーマンスアップの効果と、傷めにくくなる予防の効果も期待できます。

ただし以下のようなケースでは、動きやすくなることがリスクになる場合があるので、貼った後の体の使い方は患者様に注意しておいてください。

↓

1. 炎症症状（特に自発痛・熱感・腫脹）を認める患者さんへテープを貼った時は、施術後に急な無理をしないようにし、体としては安静が必要であることを指導してください。

〈理由〉

炎症症状があるということは、体には基本的に安静が必要な状態です。そうした状態であってもテープを貼ることによって動きやすくなると、患者さんは治ったと思い、普通に生活を始めます。

「動きやすくなる」「症状が楽になる」という変化は、体が早く回復するための余力として働かせなければなりません。

2. 運動不足気みな高齢者にテープを貼ったときは、特に急な無理はしないように指導してください。

〈理由〉

運動不足気味な高齢者の場合は、加齢により関節可動域が狭くなっていたり、筋肉が伸縮しにくくなっていたりしている状態が予見されます。テープによって動きやすくなって、普段よりも大きな可動域で動かされることになる場合があり、筋肉や関節に負担がかかり、活動後に疲労感を感じやすくなるので、急な無理はしないように指導してください。

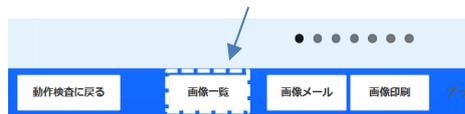
動画（TR）：[アスリート・テープを使った施術から評価までの流れ](#)（21:43）

フローチャート⑩：[施術フローチャート（テープ施術）](#)

【3】-(4)-4:-②. 選出されなかったテーピング画像を、画像一覧から任意で追加する方法

イーファスが選出しなかった画像を、**画像一覧**から**任意に選んで追加**することができます。

設定後は「選択画像を追加」を押してください。



※イーファスが選出している画像の解除はできません。

[目次に戻る](#)

[施術支援機能の説明に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術の説明に移動](#)

[\(4\)【施術操作：operation kind】に移動](#)

【3】-(4)-5: ストレッチ施術の詳細 : アスリート画面・ストレッチ選出

【3】-(4)-5:-①. ストレッチの目的と注意事項

動作検査に基づいて選出したストレッチは、主として患者様に配信して、**セルフケア資料として利用**してもらいますが、**運動療法として**施術者が他動的にストレッチすることにも利用できます。

ただし、イーファスは動作検査情報によって、動きのアンバランス（協調性）を整えるために画像を選出しているため、左右で同じストレッチが選出されないことが多く、その点において、患者様は疑問を持たれることが多いので、なぜ片方のみが選出されるのかを予め説明しておかれる方が良いと思います。

なお動作痛が顕著でない時や、健康管理の時期、患者様が片方のみストレッチすることに違和感を抱かれる時は、左右両方していただいて、選出されている側を 1.2 回多く行われるようにしていただいても構いません。

フローチャート⑪ : [施術フローチャート（ストレッチ施術）](#)

フローチャート⑰ : [配信フローチャート（ストレッチ画像配信）](#)

動画 : [オーダーストレッチの実施方法](#) (9:01)

【3】-(4)-5:-②. 選出されなかったストレッチ画像を、画像一覧から任意で追加する方法

イーファスには 103 枚のストレッチ画像があり、その中から画像を自動選出していますが、選出されなかった画像を、画像一覧の画像の中から**任意に選んで追加**することができます。

➡ ストレッチ表示画面下の「画像一覧」を押して設定します。追加する画像にチェックを入れてから「選択画像を追加」を押してください。



※イーファスが選出している画像の解除はできません。

動画 : [アスリート画面 – 自動選出画像に一覧から任意画像を追加する機能](#) (6:47)

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[導入初期にお勧めのイーファス施術に移動](#)

[\(4\)【施術操作 : operation kind】に移動](#)

[\(5\)【配信操作 : operation kind】](#)

【3】-(4)-6: FA 検査のまとめ (Fast Aid : 手当て)

FA (Fast Aid : 手当て) は、選出対象筋肉や関節に対して、施術者の手指を使って施術作用を作り、体に現れる反応により効果のある施術部位や調整方向を選別 (絞り込む) する検査です。

一般的な TL 検査 (セラピーローカリゼーション : Therapy Localization) と意味は同じです。

対象筋や関節に対する施術の作用 (短縮または伸長) ですが、手指を軽く触察 (タッチ) し、**指間を閉じたり、開いたりすること**で施術後の変化を作用させ、主訴や検証動作に対して、良変化がどうかをチェックしていきます。良変化が得られる筋肉や関節が有効として判断します。

検査の際強すぎる刺激や粗い触察タッチになると、体はリアクション (緊張反射) が生じてしまい、正しい FA 検査になりませんので、反射を起こさないような軽い刺激 (タッチ) で検査してください。

【3】-(4)-6:-①. FA 検査を上達させる秘訣

仏教では「色心不二」という言葉があり、心と体には密接な相互関係があることは広く知られています。このことは、施術においてとても重要で、患者様自身の心と体が影響し合っていると同時に、直接接する施術者と患者様の間にも影響し合っています。

施術するときの肉体操作は、患者様の体に作用 (影響) しますし、
施術するときの施術者のイメージや印象は、患者様の精神作用 (心) に影響しているということです。

施術者のイメージ (思い) は、患者様の精神 (心) を通して肉体変化として影響しますので、
施術の際の体の操作と同時に施術者のイメージの管理はとても大切です。

FA 検査は、そもそも緊張反射を起こさないような軽微で丁寧な操作になりますので、イメージによるアプローチが重要であり、施術後の体の変化を鮮明にイメージすればするほどその効果が高くなります。このことを理解して行うか、理解せずに行うかで全く効果が変わってきます。

また経験を重ねるほど、良いイメージも高めやすくなっていくので、慣れてくるほどに効果が高くなります。初めのうちは、効果が出ない時もあると思いますが、あまり気にせずに、淡々と経験を積まれるようにしていただければ、どんどん上達されると思います。

【3】-(4)-6:-②. 各施術方法における FA 検査の方法

- ★ 選出ストレッチ画像への FA : **指を開く**ことで**伸長変化**を作用させます。
- ★ 選出テーピング画像への FA : **指を閉じる**ことで**短縮変化**を作用させます。
- ★ 対象筋への FA : **指を閉じる**ことで**短縮変化**を作用させます。
- ★ 骨格調整画面の FA : **ダイレクト画面の関節へ矢印の方向性**を**手指**で作用させます。

[目次に戻る](#)

【3】-(5)【配信操作：operation kind】

- チャート：⑭.配信フローチャート（セルフケア配信設定）：詳細版

詳細版 PDF：「[\(14\) 配信フローチャート（セルフケア配信設定） 詳細版](#)」

[導入初期にお勧めのイーファス施術](#)

[新たに配信設定を登録する方法（視聴 URL の作成）に移動](#)

- チャート：⑮.配信フローチャート（セルフケア/オリジナル資料登録）：詳細版

詳細版 PDF：「[\(15\) 配信フローチャート（セルフケア/オリジナル資料登録） 詳細版](#)」

[オリジナル資料の登録説明に移動](#)

[セルフケア配信機能の詳細説明に移動](#)

[セルフケア用オリジナル資料を作成するときの参考資料](#)

- チャート：⑯.配信フローチャート（合成比較収録動画の配信）：詳細版

詳細版 PDF：「[\(16\) 配信フローチャート（合成比較収録動画の配信） 詳細版](#)」

[合成比較動画収録の説明に移動](#)

- チャート：⑰.配信フローチャート（ストレッチ画像配信）：詳細版

詳細版 PDF：「[\(17\) 配信フローチャート（ストレッチ画像配信） 詳細版](#)」

※テーピング画像も同様に配信することができます。

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

[ストレッチの説明に移動](#)

[配信チャートに関連する詳細説明]

配信チャートに関連する内容の詳細を説明します。

[3] - (5) - 1: セルフケア資料の配信機能

イーファス対象筋画面の下部に「セルフケア配信設定」というボタンを表示しています。ボタンを押すと [セルフケア配信の設定画面] が開き、施術情報に基づいた資料やその他資料を設定すると、患者様ごとに閲覧専用画面の視聴 URL を作成することができます。

視聴 URL を患者様に送付すれば、患者様はご自身のタイミングで、何処におられても、スマホなどで資料を閲覧していただくことができます。

[3] - (5) - 1 - ①. セルフケア資料配信機能の紹介動画

[セルフケア資料配信機能の紹介動画](#) (約 2:00) : クリックしてください



オリジナル資料を配信されて、
先生オリジナルの特別なセルフケアサポートを構築してください。

【3】-(5)-1:-②. 主な機能

- ・以下の資料の中から、患者様に応じて必要な資料を選択できる
- ・視聴期限を設定し、視聴終了日の3日前から来院促進のメッセージを視聴画面に表示させる
- ・オリジナル資料（画像/PDF）やウェブページ（URL）を登録しておいて配信することができる
- ・治療院の予約申込フォームのリンク表示、予約電話番号に発信できる

※配信先を条件検索し、一覧表の作成や宛名印字ができる

※配信先ごとに任意メッセージの自動メール配信を設定しておける

— 設定できる機能 —					
機能	内容	利用可能プラン			
		W	L	SP	SPS
・セルフケア配信の検索	配信した情報の確認や編集	○	○	○	○
・一覧表と宛名印字	検索した配信リストの印字	○	○	○	○
・オリジナル資料の登録	利用院のオリジナル資料を登録	○	○	○	○
・セルフケア配信先へのメール検索・登録	配信先へのメールの作成と登録 配信日を基準とした自動送信設定	○	○	-	-
— 配信できる資料 —					
資料種別	内容	利用可能プラン			
		W	L	SP	SPS
基本資料 ※施術情報から作成	直近のアスリート-ストレッチ画像	○	○	○	○
	直近の骨盤ケア画像	○	○	○	○
	直近の対象筋表示画面	○	○	○	-
	直近のアスリート-テープ画像	○	○	○	-
フィットネス	E.F.A.S 公式ヨガ動画 9種	○	○	○	○
ADL（日常生活ケア）	E.F.A.S 公式 ADL 資料 4種	○	○	○	-
オリジナル資料登録	任意の 画像 / PDF / URL	○	○	○	○

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[\(5\)【配信操作 : operation kind】](#)

【3】-(5)-2: セルフケア資料配信機能の活用方法

活用するときのポイントをお伝えいたします。

長いですが大切なポイントなのでご一読くださり、「**ご自身の治療院ではどのように活用すれば、最大の効果が出させるのか?**」についてご検討ください。

まず本機能をきっかけとして、以下のような効果が期待できると思います。

- ・他にない先進的な印象で他院と差別化ができる
- ・丁寧な印象を持っていただけ、信頼性が高まったり、関係性をより深められたりする
- ・患者様のセルフケア意識を高められる
- ・帰られてからも資料を見ていただけるので、患者様指導が深まる
 - ほかの施術メニューの紹介
 - 治療院情報の周知
 - マッサージクリームなどの物販
- ・サービスが口コミとなり紹介してもらいやすくなる 等

そこで、本機能の提供におきましては、提供価格を設定されることをお勧めします。

たとえ無料のサービスとして提供することになったとしても、本来なら適正と思われる定価を設定しておいてください。

価格設定をする理由は、患者さんにとって十分にその価値があると思うからです。

施術効果を高めたり、新しい健康習慣を創ったりする上で十分に有償の価値があると思います。

また、

1. 安価なほど人は価値を感じにくくなります。
2. 費用が掛かっているほど真剣に取り組まれます。
3. 真剣な取り組みほど満足度（成果）は高まり、良い循環が起きやすくなります。

したがって、

キャンペーン価格や無料サービスで提供されることにしたとしても、

世間話として「治療院によりますが、検査+セルフケア配信の標準提供価格は 3,900 くらいになるのですよ」と価値のあることを必ず伝えてあげてほしいのです。

あくまでも参考価格ですが、健康管理として『月1回の検査+セルフケア資料作成』のケースで、1回 ¥3,900（税込）はいかがでしょうか？

視聴期間1日当たり、缶コーヒー1本分です。

いや、先生のオリジナルの資料も配信できるので、これ以上の提供価格（価値）になりますね。 

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[イーファスの提案方法に移動](#)

【3】-(5)-2:-①. お勧めの提案方法

次に、**提案の流れについても熟慮されてから提供を開始**してください。

売上アップや治療院の価値を高める機会になると思いますが、提案の仕方を間違えると折角のチャンスを逸してしまいます。

まず何を目的としてサービス提供するのかを定めてください。

- ・他にない先進的な印象で他院と差別化する
- ・丁寧な印象を持っていただき、信頼性を高め、関係性を深める
- ・患者様のセルフケア意識を高める
- ・帰られてからも資料を見ていただけるので、患者様指導を深める
 - ほかの施術メニューの紹介する
 - 治療院情報の周知する
 - マッサージクリームなどの物販を行う
- ・サービスが口コミとなり紹介してもらいやすくする 等

目的によって、提案の仕方や内容が異なると思いますので、予め熟慮してください。

提案目的が定まりましたら、

患者様自身に「関心を持ち、受けてみたい」「受け続けたい」と感じていただくためにも、

提案の手順も何度もシュミレーションしてください。

おそらく、関係性の高い患者様であれば、「絶対にあなたに必要です」と先生がおっしゃれば、とりあえず1回は受けられる方は多いと思います。

しかし、

なんとなく始めたり、人に言われたから始めたとなると、長続きしにくいものです。

結局続けることができず、効果を感じないまま単発で終わってしまうことが十分考えられます。

そこで、

患者様にも目標や目的を明確に持っていただく。

そして、本人の意志で始める。 ということが継続のポイントになります。

例えば、

「しっかり動きを検査して、最適なセルフケアの方法を選出するシステムがありますが興味ありますか?」

「使いグセの改善と身体重心の安定効果があるので、症状の回復力がアップしやすくなりますよ。」

↓ 患者さん関心あり

「でも、続けることができなければ効果は得られません。」

「1日の時間の1%は14.4分です。1~2%くらいご自身のカラダのために時間をつくることのできる方にご提案しています。」

↓ 患者さん興味あり

「一般的な費用は1回¥3,900(税込)ですが、現在導入キャンペーンで、¥〇〇〇〇で受けていただいています。」

「目的や目標が決まっている方で、1日の2%の時間カラダのために確保できる方にはホントにお勧めです。興味があればいつでも対応しますので、おっしゃってください。」

こうして患者様自身にも目的や目標を明確に考えていただき、ご自身で決意していく流れで始めるほうが、効果も得やすくなるでしょう。

ライザップは、利用者様に毎日の報告をしていただくそうですが、

最初の数日間、実施報告をLINEに入れてもらうなんて言うのもいいかもしれませんね。

手間はかかりますが、良いサービスはそういうものだと思います。

チェックシートを作って、達成感を味わってもらうようにしてもいいかもしれません。

「セルフケア実践チェックシート（仮）」を作って、次回セルフケア検査の時にチェックした日数に応じて何か特典があっても楽しいかもしれません。（^^♪

また、施術前後の姿勢の合成比較をしてあげて、改善する姿勢をご覧になられたタイミングで提案すると、同じ検査結果によるセルフ資料ならと、さらに欲しくなってもらえるでしょうし、よりしっかりと実施しようとされるでしょう。

セルフケア資料の配信は、患者様に良い健康習慣が築かれるだけでなく、

結果、施術の継続にも、紹介にもつながると思います。

患者さんが10人おられるとして、すべての方には利用してもらえないと思います。

健康意識が高くなく、特に面倒がり屋さんの方であれば、あまり必要とされないかもしれません。

ただ**何割かの患者さんは、必ず必要とされますので、**

サービスを提供する前に、こういった価値を提供するのかを良く検討して開始してください。

患者様にとってなぜ必要なのか？

患者様のどのような心配やお困りごとの解決策として役立つものなのか？ を整理しておきましょう。

ただ単に「新しいサービスです」とだけ伝えても価値は伝わりません。

患者さんが価値を感じるのは、

自分の課題（問題）が解決することです。

できるだけ深く、強い課題であるほど解決したい気持ち（必要性）も、その価値も高まります。

普段の会話の中で、患者様自身の関心ごとや悩みを良くあぶりだしておくことが大切です。

- ・ 最期まで身の回りのことは自身で行え、周りに迷惑をかけないようにしたい
- ・ 将来の健康リスクを下げ、〇〇な老後を過ごしたい
- ・ 老後はできるだけ健康で、好きな●●の趣味を続けたい
- ・ 姿勢が気になる方でしたら、いつまでもきれいな姿勢で若々しく見られたい 等々

健康な時は、未来のことなどなかなか考えておらず、尋ねられて気づくことも多いようです。

関心や意欲を高めてもらうためにも、施術中にできるだけ現時点で考えられる健康に関する将来の不安を具体的にあぶりだすことがポイントだと思います。

何にも代えがたい、患者様との関係性を高めることになりますので、
どうぞ上手く活用してください。

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

【3】-(5)-2:-②. 説明時のトークポイント

不安や課題を具体的にあぶり出し。解決したくなる欲求を高めてください。

↓

また次のような話法を使って提案されると必要性を感じていただきやすくなります。

1. 第三者話法

利用して喜んでいただけた方の事例を紹介しましょう。

「あなたと同じ年代の方で、同じ症状の方は皆さん自分のペースを決めて取り組んでおられますよ。
そして、〇〇な良い状態になられたと伺っています」 等々

2. 使いグセを放置するリスク

「使いグセ」と「老化」は避けられないので、放っておくと、〇〇な症状がどんどん強く現れるようになり、将来〇〇なリスクがあるのですよ。 等々

3. 先生の思い

「残念ながら不死身の体はありません。それは「使いグセ」と「老化」は避けられないからです。

「今回の施術を機会に、疲れにくく、傷めにくいカラダの管理習慣を身に付けてほしいのです」 等々

患者様に必要性を理解していただいて、「ぜひ受けてみたい」と感じていただくよう工夫してください。

【3】-(5)-2:-③. セルフケア資料配信機能への期待

セルフケアは症状回復に役立てていただくほかに、

「そろそろ健康で、治療院に行くまでもないけれど、何か健康のためにしなければいけないなあ」と考えている方の健康管理にたくさん利用してもらえるようになればいいなと願っています。

「おうちジム」みたいな感じでしょうか。

そして月に一回は動作検査をして、自分オリジナルのセルフケア資料を作成してもらおう。

そんな流れが当たり前になればいいなと願って作ったシステムです。

問診と動作検査・骨盤チェックを丁寧に行ったとしても15分は掛からないし、慣れれば受付スタッフさんに任せられると思います。リアルでも、オンラインでも、1時間に最低3人は受けていただけます。

そんな 新しい『施術のカタチ』 ができることを願っています。

初めは10人に1人2人からでいいと思います。

提案を重ねれば、先生流の患者様の関心や興味の高めるパターンができると思うので、やがて3人4人…5人と増えていけばいいですね。

先生の大成功を祈っています。

同じサービスでも、提案の仕方によって、得ていただける成果は全く異なってきます。

先日古本屋で見つけた本にこんな言葉がありました。

「お客様が選ぶ理由をつくってあげることが大事」

「売れる商品」はない。

ただ「売れる売り方」があるだけ。

書籍：安売りするな!「価値」を売れ!

著者：藤村正宏

オリジナル資料を配信されて、
先生オリジナルの特別なセルフケアサポートを構築してください。

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に移動](#)

[イーファスの提案方法に移動](#)

[3] -(5)-3: 配信資料の設定・確認・編集する方法

〈セルフケア配信の設定画面〉

■作業を行う画面

新たな配信画面の作成は、対象筋表示画面から行い、

配信後の配信管理（内容の確認や編集）は、
メイン画面のセルフケア管理画面から行います。

[3] -(5)-3:-①. セルフケア資料配信の準備方法

まず、[セルフケア配信設定] の利用準備をしてください。

1. メインメニュー [所属院・施術者管理] →
→ [所属院マスタ] を開いてください。
※代表 ID でログインしてください。
2. 患者さんが予約されるときに電話番号を入力ください。
3. 予約ページのある先生は、ページ URL を入力し、
ない先生は空欄にしておいてください。
※入力されると視聴画面の予約情報にリンクボタンが
表示されます。

4. 視聴画面の確認（患者様が視聴される画面）

初めて本機能を御利用いただく時は、患者様に利用していただく前に、試験的に配信画面を設定し、事前に先生自身が確認してください。視聴画面のホーム画面左側「実施上の注意事項 使い方」ボタンを押すと、視聴画面の注意事項と使い方を確認していただけます。

【視聴画面を確認される際の注意点】

イーファスを起動している端末で視聴画面を開いたときは、開いているイーファスの画面を読み込み余計なボタンも表示されますが、患者さんが視聴される時は表示されません。

イーファスを起動していない状態で視聴 URL を開いた画面は、患者様のご覧になる画面です。

ぜひご自身のスマホでご確認ください。

【3】-(5)-3:-②. 新たに配信設定を登録する方法（視聴 URL の作成）

〈利用可能プラン：SPS・SP・L・W 版〉

1. 設定する画面

資料のデータ基となる対象筋表示画面の下部の「セルフケア配信設定」ボタンから設定します。

画面下部の「配信設定を登録」ボタンを押したときの対象筋表示画面の施術データによって設定資料を作成します。

- **施術中の設定**は、対象筋表示画面下の「セルフケア配信設定」ボタンで設定画面が開きます。
- **施術が終了してから設定**する場合は、患者様管理の「来院情報の編集画面」を開き、画面中の「対象筋表示」ボタンを押すと、対象筋表示画面が開きますので、その画面下の「セルフケア配信設定」を押して設定画面を開き、資料を設定してください。

操作フローチャート⑭：[セルフケア配信](#)

2. 配信資料の設定方法

パソコンで操作してください。

施術 ID、受付 ID のいずれかでログインしていただいても設定できます。

↓

① 視聴期間を設定する

任意のボタンを押すか、カレンダーを表示させて設定します。

視聴期間は症状や時間来院日より判断してください。

通常次回の来院予定日までを設定しますが、症状で視聴期間を判断することもあります。

なお症状が安定し、本来のカラダの使いグセに戻ってくると、動作検査を行っても毎回同じ結果になってきますので、そうした場合はある程度長い期間を設定することもあります。

- ・ 症状の強い間は、安静を第一にストレッチなど運動系は設定しない
- ・ 症状が軽減し始めてからは数日から1週間で設定する
- ・ 症状が半減してくると2週間で設定する
- ・ 症状がなくなり、健康管理としては1ヶ月～数か月で設定する 等

↓

[2] 配信するセルフケア資料を設定する

を入れた資料が配信され、の入っていないボタンは視聴されません。

※ヨガ動画は約15分で作成しています。

※公式ADLの各資料は事前に内容を確認され、問題なければ使用してください。

[3] すべての設定が完了しましたら、[配信設定を登録]を押してください



設定する内容は、メイン画面の[セルフケア管理]ボタンから視聴期間中に何度でも変更ができます。

変更した時は、必ず内容の更新のため、配信設定を登録を押してください。

[4] セルフケア視聴URLが自動生成されます。

[視聴用URLをコピー]ボタンを押すと、クリップボードにコピーしますので、LINEなどにペーストして患者さんにお知らせください。

[視聴用URLをメール送信]ボタンは、メール送信画面が表示され、入力したアドレスにメールを送ります。患者様のメールアドレスは、予め患者マスタに登録しておくとう入力の手間が省けます。

なお、送信元のアドレスは「e@efas.jp」になり、以下の文章を送信メールに記載しています。

「送信専用アドレスで自動送信しております。ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。」

返信のメールアドレスを受け付ける場合は、署名欄か本文に「返信先アドレスとコメント」を記載してください。

↓

署名の編集は、メイン画面 → 情報管理メニューを開き → 署名登録 を押して、署名1の内容を編集・登録してください。

※セルフケアの署名は、署名1を配信する仕様になっています。

[目次に戻る](#) [\(5\)【配信操作 : operation kind】](#)

【3】-(5)-3:-③. 先生のオリジナル資料の登録と配信方法

オリジナル資料として、画像・PDF・URLを登録しておいて、必要なときに☑をすれば配信することができます。

詳細版 PDF : 「[\(15\) セルフケア/オリジナル資料の登録](#)」



[資料の追加手順]

セルフケア配信の設定画面を開き、

- ①. **資料追加** ボタンを押す



- ②. 資料の登録

■ 画像やPDFを登録する場合

- (1) **資料名・簡易説明**を入力
- (2) **ファイルアップロード**を押す
- (3) **資料ファイル選択**を押す

パソコンから任意の画像を選択して登録してください。

- (4) **資料を登録**を押す

■ URL を登録する場合

- (1) 資料名・簡易説明を入力
- (2) URL を登録 を押す
- (3) URL を入力
- (4) 資料を登録 を押す

追加された資料は一覧に表示しますので、患者様に資料を配信する時に☑を入れます

編集・削除はこちらから行えます

【3】-(5)-3:-④. セルフケア用オリジナル資料を作成するときの参考資料

セルフケア資料を作成する際に参考にしてください。

そのまま使用していただいても構いませんが、Word 資料で編集も行えます。

※導入時はダウンロードしていただけます。

PDF : [「患者配布用セルフケア資料-2.4」](#)

Word : 「患者配布用セルフケア資料」(編集用)

動画 : [「患者配布用セルフケア資料」補足説明](#) (1:15)

PDF : [「意外と知られていない姿勢の話-3.2」](#)

Word : 「意外と知られていない姿勢の話-3.2」(編集用)

[目次に戻る](#)

[\(5\)【配信操作 : operation kind】](#)

【3】 - (5)-3:-⑤. 配信済のセルフケア視聴画面の管理機能

〈利用可能プラン： SPS・SP・L・W 版〉

〈配信済の内容確認・編集・一覧・宛名印字する方法〉

- チャート： ②. 基本フローチャート（セルフケア視聴画面の閲覧と編集操作）

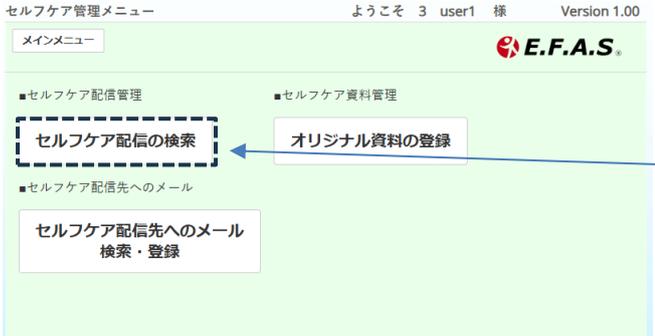
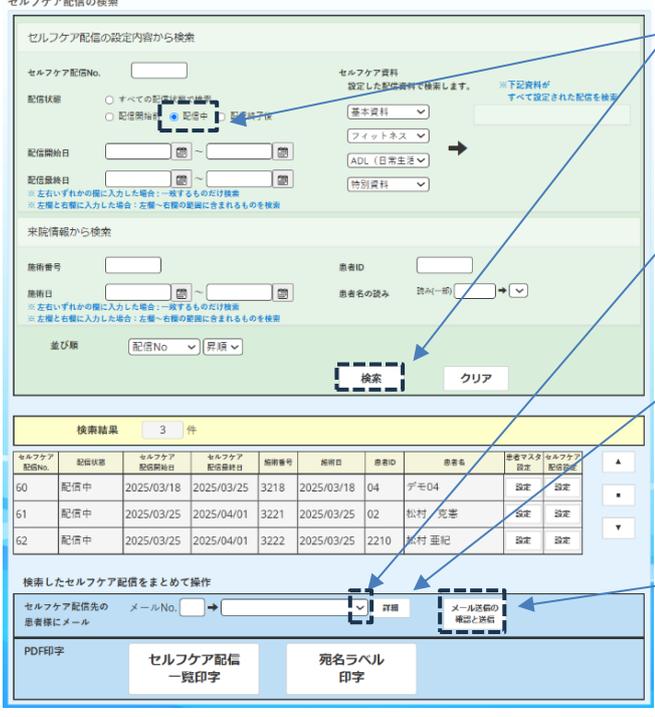
詳細版 PDF：「[\(22\) セルフケア視聴画面の閲覧と編集 詳細版](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動](#)

〈検索した配信先へ一斉メール配信を行う方法〉

〈利用可能プラン： L・W 版〉

画面	操作説明
	<p>・メインメニュー右画面で セルフケア管理 を押して、セルフケア管理メニュー画面を開く</p> <p>↓</p> <p>・セルフケア配信の検索 を押して、セルフケア配信の検索画面を開く</p> <p>↓</p> <p>画面上部の検索条件エリアで条件を入力する</p> <p>※複合条件入力可</p>
	<p>・ここでは、配信中 を選択し、検索 を押している</p> <p>↓</p> <p>検索された患者様の一覧が表示されます</p> <p>↓</p> <p>リストボタンを押すと、予め登録しておいた配信メールが表示されるので、配信するメール名を選択します</p> <p>※詳細 を押すとメールの設定内容を確認できます</p> <p>※メールの内容を編集するときは、情報メニュー管理のメール登録から編集してください</p> <p>↓</p> <p>メール送信の確認と送信 を押すと、患者様のマスタのメール自動配信ありを選択した方にメールを一斉送信します</p>

〈セルフケア配信先への新規メールの作成方法〉

検索したセルフケア配信先への一斉メール送信のメール内容を予め登録しておく方法は、以下のページを参照して作成してください。

➔ [新規メールの作成方法の説明へ移動する](#)

[目次に戻る](#)

[配信メールの事前登録方法](#)

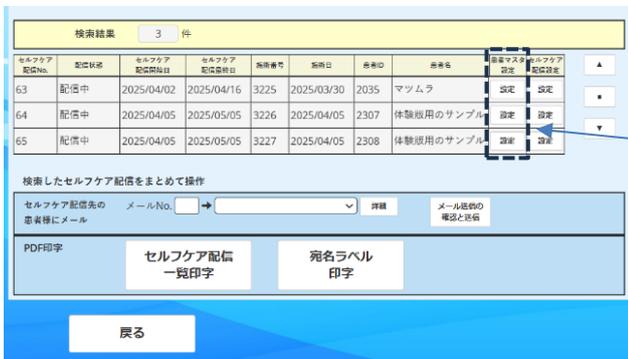
〈セルフケア配信先へのメール自動配信を設定する方法〉

〈利用可能プラン：L・W版〉

セルフケア視聴画面のURLを配信された患者様の中で、**患者マスタの「メール自動配信の有無」で「あり」を設定している患者様に、メールを自動配信する機能があります。**

患者マスタのメール自動配信の設定は、初期値で「なし」になっており、まず**メール自動配信を送りたい患者様の患者マスタで「あり」に変更・更新する必要があります**のでその方法を説明します。

〈セルフケア配信の検索画面から患者マスタを変更する方法〉



患者の患者マスタ画面は、セルフケア配信の検索画面で患者検索をすると、下に一覧が表示されるので、**・患者マスタの設定** をクリックすると開くことができます。



- ・メール自動配信有無 を「あり」に変更する。
- ↓
- ・登録 を押して更新してください。
- ↓
- ・戻る を押すと、セルフケア配信の検索画面に戻ります。

では次にセルフケア配信先への自動メール配信の設定方法を説明します。

↓

配信日時は、セルフケア配信の設定画面で、**[配信設定を登録]**を押された日を基準に任意に設定します。本画面で設定を削除されるまで、設定された送信日時に配信済の患者様へメールを自動配信します。

- チャート：⑳. 基本フローチャート（セルフケア配信先への自動メール配信）

詳細版 PDF：「[\(23\) セルフケア配信先への自動メール配信 詳細版](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に戻る](#)

【3】 -(5)-3:-⑥. イーファス公式 ADL 資料の確認

〈利用可能プラン : SP・L・W 版〉

セルフケア配信画面 (ADL : 日常生活ケア) は、予め掲載している E.F.A.S 公式資料です。

配信設定画面で☑を入れると配信できますので、内容確認の上ご活用ください。

※ぜひ実際にテスト的に配信されて、スマホの画面で確認してください。

- [*1-1. 「動作検査の理由」](#)
- [*1-2. 初めて整体を受けた方へ「整体後の体の変化と初回 3 回整体について」](#)
- [*2-1. 「健康生活のアドバイス」](#)
- [*3-1. 「自分でできる治癒力の高め方」](#)

※動画が上手く視聴できない時は、公式 ADL を設定の上テスト配信して内容を確認してください。

[目次に戻る](#)

【4】 保存した過去の来院情報（施術情報）の閲覧と編集方法

【4】-(1) 過去の来院情報の閲覧と編集方法

既に終了（保存）した施術情報の確認や編集などは、**来院情報の編集画面**から検索して行います。
※受付 ID でパソコンにログインして操作できます。

〈来院情報の編集画面で行う主な作業〉

- ・ 終了（保存）した対象筋表示画面の閲覧
- ・ アスリート機能（ストレッチ / テープ）画面の閲覧や配信
- ・ セルフケア視聴画面の配信設定
- ・ 保存画像（姿勢画像）の確認や評価

■ チャート：⑳. 基本フローチャート：過去の来院情報画面の操作

詳細版 PDF：「[\(20\) 過去の来院情報画面の操作フローチャート 詳細版](#)」

動画：「[過去の施術データの閲覧（来院情報の編集） 6:57](#)」

[目次に戻る](#)

[フローチャート一覧に移動する](#)

[既に終了した施術情報を確認・編集する方法](#)

【4】-(2) 経過観察の方法

イーファスの施術部位は、全身調整のポイントとして選出されているので、症状の原因が全身性の問題であればあるほど顕著な効果が得られます。

逆に局所が主な原因である場合ほど効果の現れ方は緩やかですが、全身調整による治癒力の促進効果が十分期待できますので、局所に有効な他の療法と併せて施術を組み立ててください。

但し、局所に損傷や強度の炎症症状を認める場合は、局所への施術は避けられた方が良いでしょう。

【4】-(2)-1: 経過良好な時の判断

基本的に前回施術と同じ内容で加療していきます。

経過途中で動き方に变化がある場合は、**動作検査に戻る** ボタンを使って、変化した運動面情報を再入力し、骨盤検査も再度行います。

施術の考え方としては、その時点その時点で最適な平衡状態に整えて、自然治癒力が最も働きやすいような体の状態に調整するという事です。

なお選出する対象筋の中に、局所の筋肉が選出されないことがありますが、局所に損傷や強度の炎症症状を認めない場合は、局所に対する必要な施術を追加施術されても問題ありません。

〈経過が良い時ほど気を付けるポイント〉

多くの患者様は体の状態よりも症状で判断されますので、症状が楽になったり、動きやすくなったりすると、すぐに無理な使い方をされます。

「症状が楽になっても、まだ状態としては、回復のための安静な管理が必要な時期です」とか、「楽になった体の変化は、体の回復力として使ってください」とアドバイスするようにして、急な無理をされないように説明してください。

[目次に戻る](#)

【4】-(2)-2: 経過不良な時の判断

翌回の問診時に経過不良と判断した時の対処法をご説明いたします。

「前回+対象筋表示」で表示される対象筋表示画面の検証動作を評価した結果

【4】-(2)-2:-①. 前回と異なる動きにくさを評価したときの判断

- ・ 前回の施術直後に施術効果が得られていた場合は、「動作検査に戻る」から検証動作で変わっている情報を入力し直してください。骨盤検査も行います。
- ・ 前回の施術直後に施術効果があまり得られていなかった場合は、「動作検査をやり直す」から前回とは異なる検査法でやり直してください。
前回運動機能検査を行っている場合は、関節運動検査でやり直してください。

【4】-(2)-2:-②. 前回と検証動作が全く同じときの判断

1. 骨盤検査ボタンを押すと解除できるので、**骨盤検査からやり直してください。**
↓
2. **骨盤検査をやり直した結果が、前回と同じ結果になる時や、骨盤検査の評価が不明確であったり、評価しにくい場合は、「動作検査をやり直す」から前回と異なる検査法でやり直してください。**
前回運動機能検査を行っている場合は、関節運動検査でやり直してください。
また、局所の問題が大きい場合も考えられるので、局所への施術割合を大きくしてください。

【4】-(2)-2:-③. 帰宅後2日以内に症状が逆に悪くなっていたときの判断

〈対応〉

1. 動作検査の方法を変えてみる。
2. 局所よりも遠隔部の調整割合を増やしてみる。
3. ほかの問題（内臓）が隠れていないか念のため病院の検査を勧めてみる。

前回の施術直後に動きや症状の改善が多少得られていたのであれば、イーファスの全身調整は効果しているので、動作検査の方法を変えてみてください。 前回運動機能検査をされていたのであれば、関節運動検査で検査をやり直してみるということです。検査法を変えることは、見立て方を体の中心から見立てるのか、症状が現れている局所から見立てるのかということで、体への作用が変わり、良い改善がみられることがあります。

また、前回の施術直後に動きや症状の改善が多少得られていたのに、施術後2日間以内に施術前よりも悪化していたときは、悪化した要因として、全身性の問題が強く、全身性の過緊張が要因になっていることが考えられますので、局所への調整よりも遠隔部への調整割合を増やすようにします。

多くの場合、遠隔部の調整で全身性のバランスが整ってくると、体の過緊張が緩み改善することが多いです。そうした時は緊張緩和施術の割合も増やしたり、時には**緊張緩和と骨格調整のアクチベータでのアプローチだけを重点に施術**することもあります。

ただ、**施術後2日間以内の悪化に自発痛があったときは、念のため筋骨格系の問題よりも他の問題として内臓の問題などを疑いますので、再度加療しても、同じように施術後2日以内に悪化するような変化を呈したときは、一旦他の隠れた原因がないかを病院で検査してもらうようにアドバイスするようにしてください。**

【4】-(2)-2:-④. 症状の変化がね良くも悪くも全く見られないときの判断

(対応)

- 1.動作検査の方法を変えてみる。
- 2.局所よりも遠隔部の調整割合を増やしてみる。
- 3.手法を変えてみる。例えば、骨格調整でしたら、リバース画面（アクチ）よりもダイレクト画面（徒手またはドロップ）のどちらにウエイトをかけるかなど。

前回の施術直後に動きや症状の改善が多少得られていたのに、全く改善していない時ですが、対象筋表示画面左上の検証動作や主訴が同じでしたら、基本は前回の施術画面で加療しますが、**施術画面に対するアプローチの方法を変えたりします。骨格調整はダイレクト画面をより重視することが多い**です。また、**テープ施術や緊張緩和の割合は増やしてみます。**

なお、動作のし辛さや主訴の症状に変化がある時は、動作検査も再度やり直してみてください。前述の対処と同じになりますが、動作検査の方法を変えてみるのも効果的なことが多いです。

ただ**施術後に悪化しないのであれば、体の状態として慢性化していることで変化しにくくなっているだけの時もあり、そうした場合の多くは数回加療すると改善が始まります。**

【4】-(2)-3: 症状が改善してからの健康管理の施術

症状が改善してくると、前回の検証動作を確認すると、毎回同じ方向の動きにくさを評価するようになってきます。これは、体の使い癖は生活している限り万人に必ず存在しているからです。

症状が現れていない時の使い癖（動作検査の評価：動きにくさ）は、**普段の体を使う環境や使い方に適応している状態とも言えますので、左右に差を認めても必ずしもそれは悪いとは限りません。**

症状が改善しているのであれば、利き手や利き足が存在していることと同じようなものですので、基本は下記の2つの要件に当てはめて施術目的を設定してください。

なお健康管理の時期になってくると、そもそも動きにくさを感じにくくなっていて、骨盤検査で評価しにくくなっているため、施術者の判断による施術目的で施術を進めてください。

骨盤検査は省略して以下の要件で施術目的を選択してください。

↓↓↓

【4】-(2)-3:-①. 疲労を回復させる施術目的

→ 「局所安静 + 安定」もしくは「予防」

【4】-(2)-3:-②. パフォーマンスをアップさせる施術目的

→ 「動作向上 + 安定」

最もパフォーマンスを高めたいときは、「+安定」を外し、「動作向上」を選択しますが、動きやすくなるということは、同時に疲れやすくなるということも言えるので、その点は患者様へアドバイス（注意説明）しておいてください。

特に高齢者や体力が低下している患者様へ動作向上系の施術目的で施術した時は、施術後に体が疲れやすく感じても、心配ないことを説明しておいてください。体が動きやすさに馴染んでくると、疲れにくく、動きやすくなっていきます。

支持性は考えずに、とりあえず動きやすくするという場合は、「+安定」を外して「動作向上」を選択してください。

[目次に戻る](#)

【5】参考施術動画 一覧

動画 URL	施術内容
https://youtu.be/jGxeJZ7DumM	施術動画： テープ施術の実演 FA 検査から貼付後の評価 ※運動機能検査
https://youtu.be/YWyBS-cjJ4E	施術動画： 骨格調整 + 姿勢評価の流れ 姿勢撮影・動作検査・アクチ・ドロップ D・姿勢比較 ※運動機能検査
https://youtu.be/woD9jmCgzgc	
https://youtu.be/coesFI7STRc	
https://youtu.be/SqM_-prqIRI	施術動画： 緊張緩和・骨盤ケア ※運動機能検査 ※腰部痛
https://youtu.be/mPFjPf0e1yQ	施術動画： 緊張緩和・骨盤ケア・アクチ ※関節運動検査 ※頸部痛
https://youtu.be/joFLhhgM3uU	解説 + 練習動画： アクチ・筋肉 ※運動機能検査 ※腰部痛
https://youtu.be/rAAIUY3zFSM	解説 + 練習動画： 距骨チェック・アクチ ※関節運動検査 ※頸部痛
https://youtu.be/0UMqPACIGMg	解説 + 練習動画： アクチ・徒手骨格・筋肉 ※関節運動検査 ※左肩痛
https://youtu.be/Lhj69Y-TP5A	解説 + 練習動画： 徒手骨格・アクチ・筋肉・骨格調整テープ ※関節運動検査 ※頸部痛
https://youtu.be/iNqTohYQpNA	解説 + 施術動画： アクチ・徒手骨格・局所筋肉 ※関節運動検査 ※左肩甲部痛
https://youtu.be/Lo2nKRDdKgM	解説 + 施術動画： アクチ・徒手骨格 ※関節運動検査、グーパーテスト ※右肩痛
https://youtu.be/s7TE2-3CTh8	最近の私の施術
https://youtu.be/tpROxRA-3GI	解説 + 施術動画： 緊張緩和・アクチ・ドロップ D・三角ブロック・骨盤ケア ※関節運動検査 ※頸部痛
https://youtu.be/o2i6nZBvnA	解説 + 施術動画： 緊張緩和・テープ施術・アクチ・姿勢分析 ※関節運動検査 ※頸部痛

[目次に戻る](#)

[イーファスの施術支援機能の説明に戻る](#)

【6】 付録 : appendix

【6】 -①. システム画面の構成と機能の概要

イーファスシステム画面の構成と機能概要 (利用プラン : W 版)				
メイン画面の機能ボタン		下層画面の機能ボタン		下層画面ボタンの機能の概要
メイン画面	→ カウンセリング	→	画像比較	カウンセリング用の画像一覧を表示・比較デモをする
		→	E.F.A.S 機能紹介	カウンセリング資料 (紹介パターン : 紙芝居風) の表示する
		→	紹介画像選択	カウンセリング用の紹介パターンの作成する
		→	紹介画像登録	オリジナル資料の作成・登録する
	→ 枠下	→	動作検査	動作検査選択画面に遷移する
		→	施術前後の説明動画	患者様用 : 動作検査の注意点を動画で視聴する
		→	サポート	サポート画面に遷移する
	→	モバイルアプリ管理	現在不使用	
	→ セルフケア管理	→	セルフケア配信の検索	配信済の配信を検索する
		→	オリジナル資料の登録	セルフケア用のオリジナル資料を登録する
		→	セルフケア配信先へのメール検索・登録	配信先への自動メールの配信設定をする
	→ 枠下配置	→	サポート	サポート画面に遷移する
	→ 動作検査	→	運動機能検査	施術データを保存せずに運動機能検査を行う
		→	関節運動検査 (画像選択式)	施術データを保存せずに関節運動検査 (画像選択式) を行う
		→	関節運動検査 (名称選択式)	施術データを保存せずに関節運動検査 (名称選択式) を行う
		→	姿勢検査	施術データを保存せずに姿勢検査を行う
		→	キーワード入力	施術データを保存せずにキーワード入力を行う
	→ 枠下配置	→	メインメニュー	メインメニュー画面に遷移する
		→	症状管理	症状管理画面に遷移する
		→	モバイル情報	現在不使用
	→ 所属院・施術者管理	→	所属院マスタ	治療院の登録情報を登録する
		→	施術者の検索	発行された施術 ID の利用者情報を検索する
		→	施術者マスタ	発行された施術 ID の利用者情報を登録する
→ 枠下配置	→	サポート	サポート画面に遷移する	
→	症状管理	→	患者を採番して施術を始める	
→ 患者様管理	→	患者マスタの検索	患者マスタを検索する	
	→	患者マスタ	患者マスタを登録・編集する	

		→	患者情報の複合検索	患者マスタの登録情報から複合条件で対象者を検索する	
		→	来院情報の検索	保存済の来院情報（施術データ）を検索する	
		→	来院情報の編集	保存済の来院情報（施術データ）を閲覧・編集する	
		→	施術日登録	イーファスで施術しない患者も施術した履歴を残す	
		→	患者一覧 CSV	最終画像保存日から該当患者様の CSV 資料を作成する	
		枠下配置	→	サポート	サポート画面に遷移する
	情報メニュー 管理	→	コード	各マスタの一部項目に任意の項目名を設定する	
		→	アクセスログ	アクセス情報を確認する	
		→	署名登録	配信メールの署名を登録・編集する ※1の登録必須	
		→	メール検索	登録したメールを検索する	
		→	メール登録	配信するメールを作成・登録・編集する	
		→	ステップ配信	登録したメールでステップメールのパターンを作成する	
		枠下配置	→	サポート	サポート画面に遷移する
	枠下配置	→	ログアウト	<p>※ 表中の「遷移する」とは画面が変わることです</p> <p>※ 利用プランによって機能ボタンの表示は変わります</p>	
→		再ログイン			
→		サポート			
→		お問合せ			
→		事務連絡			

[目次に戻る](#)

【6】-②. イーファス 利用プラン別 利用可能な機能の一覧

イーファスシステム 利用プラン別 利用可能機能表						
メイン画面の機能ボタン	下層画面の機能ボタン	下層画面ボタンの機能の概要	W	L	SP	SPS
カウンセリング	→ 画像比較	カウンセリング用の画像一覧を表示・比較デモをする	○	○	○	○
	→ E.F.A.S 機能紹介	カウンセリング資料（紹介パターン）の表示	○	○	○	○
	→ 紹介画像選択	カウンセリング用の紹介パターンの作成する	○	○	○	○
	→ 紹介画像登録	オリジナル資料の作成・登録する	○	○	○	○
モバイルアプリ管理	→ 現在不使用		△	-	-	-
セルフケア管理	→ セルフケア配信の検索	配信済の配信を検索する	○	○	○	○
	→ オリジナル資料の登録	セルフケア用のオリジナル資料を登録する	○	○	○	○
	→ セルフケア配信先へのメール検索・登録	配信先への自動メールの配信設定をする	○	○	-	-
動作検査	→ 運動機能検査	施術データを保存せずに運動機能検査を行う	○	○	○	○
	→ 関節運動検査（画像選択式）	施術データを保存せずに関節運動検査（画像選択式）	○	○	○	○
	→ 関節運動検査（名称選択式）	施術データを保存せずに関節運動検査（名称選択式）	○	○	○	○
	→ 姿勢検査	施術データを保存せずに姿勢検査を行う	○	○	○	○
	→ キーワード入力	施術データを保存せずにキーワード入力を行う	○	○	○	○
	筋肉表示施術	モード選択（矢状・前額選出）	○	○	-	-
		モード選択（基準面切替）	○	○	-	-
		急性変換	○	-	-	-
		選択検査	○	○	○	○
		施術目的（局所安静）	○	○	-	-
		施術目的（局所安静+安定）	○	○	○	○
		施術目的（予防）	○	○	-	-
		施術目的（動作向上）	○	○	-	-
		施術目的（動作向上+安定）	○	○	○	○
		骨盤検査	○	○	○	○
		第2次選出（運動性・支持性選出）	○	-	-	-
		肢位切替	○	○	○	-
		主選択	○	○	○	-
		厳選	○	○	○	-
		優先	○	○	○	-
		調整図印字	○	○	-	-
		調整図印字（オンライン施術用）	○	○	-	-
セルフケア配信設定	○	○	○	○		

		骨格施術	骨格調整 (リバース・ダイレクト)	○	○	○	○
			骨格調整 (三角ブロック図表示)	○	○	○	-
			骨盤ケア図	○	○	○	○
		ストレッチ・テープ施術	アスリート (ストレッチ画面)	○	○	○	○
			アスリート (テーピング画面)	○	○	○	-
所属院・施術者管理	→	所属院マスタ	治療院の登録情報を登録する	○	○	○	○
	→	施術者の検索	発行された施術 ID の利用者情報を検索する	○	○	○	○
	→	施術者マスタ	発行された施術 ID の利用者情報を登録する	○	○	○	○
症状管理	→		患者を採番して施術を始める	○	○	○	○
患者様管理	→	患者マスタの検索	患者マスタを検索する	○	○	○	○
	→	患者マスタ	患者マスタを登録・編集する	○	○	○	○
	→	メール自動配信	メール自動配信	○	○	-	-
	→	メールステップ配信	メール自動配信ステップ配信	○	○	-	-
	→	患者情報の複合検索	患者マスタの登録情報から複合条件で対象者を検索	○	○	○	○
	→	来院情報の検索	保存済の来院情報 (施術データ) を検索する	○	○	○	○
	→	来院情報の編集	保存済の来院情報 (施術データ) を閲覧・編集する	○	○	○	○
	→	施術日登録	イーファスで施術しない患者も施術した履歴を残す	○	-	-	-
	→	症状一覧	症状などを入力・保存・閲覧	○	-	-	-
	→	施術計画	施術計画の作成・管理	○	-	-	-
→	患者一覧 CSV	最終画像保存日から該当患者様の CSV 資料を作成	○	○	○	○	
情報メニュー管理	→	コード	各マスタの一部項目に任意の項目名を設定する	○	○	-	-
	→	アクセスログ	アクセス情報を確認する ※ほとんど使いません	○	○	-	-
	→	署名登録	配信メールの署名を登録・編集する ※1 の登録必須	○	○	○	○
	→	メール検索	登録したメールを検索する	○	○	-	-
	→	メール登録	配信するメールを作成・登録・編集する	○	○	-	-
	→	ステップ配信	登録したメールでステップメールのパターン作成	○	○	-	-

[目次に戻る](#)

ご不明な点がございましたら、

サポート事務局またはインストラクターまでお気軽にご連絡ください

CIM 有限会社 イーファス サポート事務局 担当：松村 TEL：090-5885-3473

メール：support@efas.jp